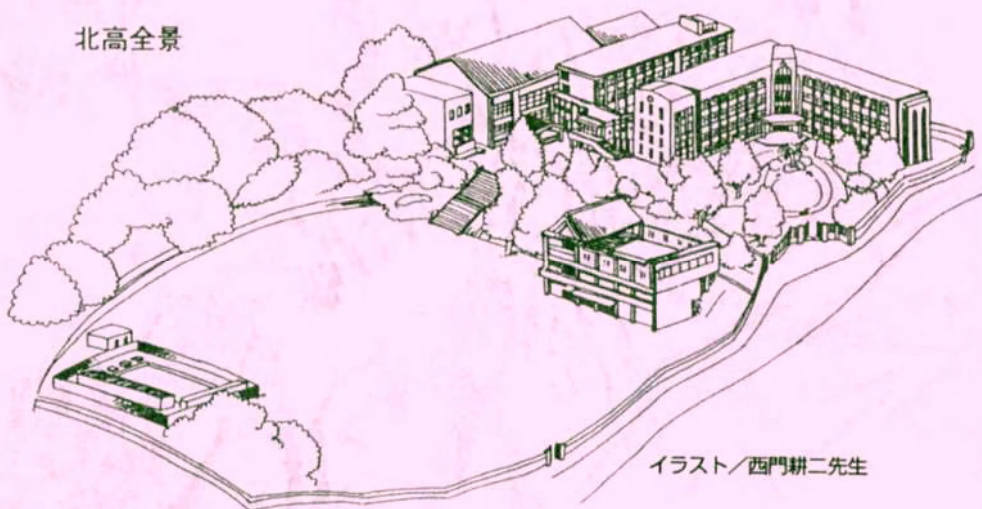




いつまにか——20年
東京北星会20周年記念誌
1998

北高全景



イラスト／西門耕二先生

校歌

作詞／校歌選定委員会 作曲／平井 廣三郎

一、紫匂ふ烏帽子岳

明けゆく朝 空澄みて

潮の音遠く ひびきては

八幡台に雲ぞわく

青嵐に立つ北高校

二、自由の鐘の鳴るところ

久遠の生命 育みて

喜び満てる 学舎に

ああ、夢多き 若人よ

いざ高らかに 歌わなん

三、三歳の秋を ひたすらに

真理の扉開きつつ

樹つる我等の 学の道

理想に強く 生きんかな

我が北高に光あれ

「東京」という歌があった。

地方の若者の東京に対する憧れを歌った

そのフォークソングがミリオンセラーを記録し、

ほぼ時を同じくして東京北星会が誕生した。

そして二十年、

母校佐北も五十周年を迎えた。

この記念すべき年を、

ささやかな形でも残したい…

そんな思いが実を結んだ。

東京北星会としては初めての試みである。

不満足な点は多々あるが、

十年後、二十年後にさらに充実した内容で

編まれることを確信しつつ、

お手元にお届けする。



絵／松尾一枝先生

祝東京北星会二十周年によせて



東京北星会会長(四回生)
生山康夫

暖かい春の陽射しを受ける頃になると、そろそろ東京北星会の総会が近づいて来たなと思ひながら、北高時代の頃を懐かしく想ひだします。

北高を卒業してからは、全く同窓生に会う機会もなく、郷土のことを思いながらも、帰郷せる時間もない多忙な毎日を過ごして来ましたが、東京北星会が設立されてからは、久し振りに懐かしい人達や若い後輩達に会うことも多くなり、在学時代の事や最近の状況等を聞いている青春時代に戻り、当時を思い出しながら語り合うのを楽しみにしています。

東京北星会設立時は、幹事として少しでも協力出来ればと思ひていましたが、会長を引き受けることにより、まず軌道に乗っていない東京北星会運営の安定と基礎固

めが必要と痛感し、各回幹事の皆さんと意見を交換し、協力し、幹事不在の卒業回は幹事を出すよう働きかけ、幹事会を円滑に運営するように心掛けてまいりました。

幹事の皆さんは多忙にもかかわらず出席し、会の目的である会員相互の親睦をどのように図っていくかについて、先輩、後輩に関係なく積極的に意見を交換し、幹事会を活性化させ、会の運営を円滑にしてくれました。

更に、幹事を支えている同期生の皆さんの多大なる協力により、他では見られない活気のある総会を開催することが出来たと感謝しております。会員が一同に集まるのは、二年に一回開催している総会ですが、他にも交流する機会を設けようとゴルフコンペを年に二回春と秋に行い参加者は増え続

けています。今年は三十回大会を迎えますので、盛大な記念大会にする予定です。

北高バレー部が春の全国大会に二回出場し、その時には臨時応援団を結成し、カンパをしたりして応援をしたこともあります。二回目の出場では試合毎に勝ち上がりベストエイトにはいり全国に佐世保北高の名を高めた事もあります。前回までの総会には、幹事の呼び掛けと会員の協力により、約三千人いる会員のうち、四百人前後の会員が毎回参加しています。

東京北星会は今年で二十周年を迎えることが出来、何とか基礎が出来てきたと思います。これを機会に設立から今日までの活動を振り返り、将来さらに発展していく第一歩としたいと思います。そのためにも第十回総会は二十周

年記念大会として記念行事を開催すべく、平成八年九月から準備を始め、イベントプロジェクトチーム、記念誌プロジェクトチームを発足させました。

各チームとも、再三検討会を開き具体案を作り、幹事会で承認を得るという方法を取りながら、記念総会への参加会員五百人を目標をめざし幹事一同頑張つてまいりました。

記念誌は、多くの会員の方に読んでいただき、これからの東京北星会発展のために、ご意見を頂ければ幸いに存じます。

平成十年は佐世保北高が創立五十周年を迎え、東京北星会は二十周年になるという二重の記念すべき年でもあり、第十回総会はその多くの会員の記憶に残る大会となるでしょう。



北星会会長(七回生)
村田 純一

東京北星会会員の皆様の益々のご清栄心からお慶び申し上げます。

又、東京北星会二十周年を心よりお祝い申し上げます。

我が母校北高は本年平成十年に五十周年を迎えました。この半世紀の間に二万五千名余の卒業生を生み、社会のあらゆる分野にめざましい活躍をなされ私たち同窓生に誇りと自信を与えてくれております事を大変嬉しく思っております。これも東京北星会を始め各支部の皆様のお力添えがあつてのことと改めてお礼申し上げます。

今社会が複雑且つ、多様化しテンポの変化に目を見張る昨今、今一度先輩達の足跡を見つめ、又、新聞・テレビを賑わす残酷な殺人の被害者いや、加害者までが中学生であり高校生出であつたりする今日、そしてそれにより教育問題がまず問われる時、後輩の良き道標となるべく我々の北星会をもっと発展させ、皆の集いの場としての役割を持たせ、利用して頂きたいと思ひます。

特に地元と違い、東京北星会におかれましてはその役割は計り知れないものがあると思ひます。

今後共、益々友好の場として発展され、我が北高の校訓であります「友愛」「積極」「自立」のもと、二十一世紀を担う後輩の良き礎としての地位を確立されることを願っております。

東京北星会二十周年を心よりお祝い申し上げます。

最後に我が北高の五十周年記念事業も皆様のご協力と着々と実行されております。今後とも尚一層のご協力を重ねてお願いいたしまして私の挨拶と致します。



カット／高祖一幸(4回生)



北高等学校前校長
山崎 政之

「東京北星会」結成二十周年と第十回総会の記念すべき年を迎えられ、お祝い申し上げます。

北星会二万五千名余の会員数となつた佐世保北高校は、本年度創立五十周年を迎え、北星会を中心に募金活動、記念事業に取り組んでおります。

昭和二十三年度の学制改革により、地元佐世保市において旧制中学校・高等女学校の五校を統合分割することで、佐世保北、佐世保南が創立されました、同じ年度に、長崎市においても長崎東、長崎西の二校が中島川で二分されております。

佐北と佐南の両校は、この五十年間、各分野においてライバル校として競い合うことで、佐世保市の高校として成長し現在に至っております。

創立記念事業のオープン行事として、二月一日に両校卒業生の芸術展を市美術センターで開催し、本年度を記念年として設定しております。創立五十周年の記念式典・

祝賀会は、十月十七日(土曜日)に企画しております。

北星会々員の募金状況は、郷土佐世保・母校北高への想い想いの中に、各卒業回毎に集約し、募金額・賛助人数が示されています。

校長として二十二年振りに戻った佐世保北高が最後の勤務となり、北星会々員との三十年振りの出会いに昭和四十年代が想いだされる昨今です。特に卒業生の中に卒業回数を知らないものが多いので、次の方法を活用して下さい。

一、昭和の卒業生は、高校卒業の年から二十三の数をマイナス(例昭和三十一―二十三〇八回生)
二、平成の卒業生は、高校卒業の年に四十の数をプラス(平成三十四―四十三回生)

東京北星会においても、今後、若い会員に対して教示していただき東京北星会と本部事務局との強い連携によって、佐世保北高、北星会の二十一世紀への成長を期待しております。

「過去、そして未来へ」

出席者

鴨打(副島)ヨシ(3回生)	土岐 邦三(7回生)
生山 康夫(会長・4回生)	宮田 学(22回生)
杠 一義(5回生)	足立(松瀬)慶子(31回生)
真子 俊太河(6回生)	桑島(長友)千秋(31回生)

東京北星会も二十周年を迎えるにあたり、本日はその創設時のご苦勞や今後の運営等についてお話をお伺いするため、お集まり頂きました。

早速ですが、まずこの東京北星会がどのようにして出来たのかその辺りの経緯を伺いたいです。

【真子】 その母体となったのは、私共六回生の同期会である六星会です。当時コーキ出版という会社に社長の松尾を始め同期生が七人いて、東京にいた同期の約一割を占めていたこともあって、中心的な役割を果たしていました。昭和五十四年でしたか、たまたま会合に先生を十人程度呼ぼうということになり、じゃあ同様に同期会をやっているという前後の会にも声をかけようということになった訳です。渋谷の109で開いたところ、百人程が集まり、そこで関東にいる同窓生を組織してはどうかとの意見が盛り上がり、会の終わりに各回一名の幹事を出してもらい、それが準備会みたいな形となったのです。

一番年長であり、北高の初代生徒会長として「ジャーマン」というニックネームで伝説的存在であった二回生の木村氏に無理を言って会長となって頂き、幹事長を真子、事務局はコーキ出版の浜田(六回生)という体制でスタートしました。

【鴨打】 第一回の総会は昭和五十五年に六本木のロアビルで参加者が二九六人、それ以降は二年毎として、第二回が渋谷の金王まつり(東邦生命ビル)で参加者三六〇人

6回生の同期会から始まった…

と飛躍的な拡大をみました。その頃から実質的な事務局を十三回生の浜副さんがおやりになっており、ご健康を害される迄精力的に活動して頂きました。

【杠】 何人集まってくれるのか全くわからない状況で、もし参加者が少なく赤字になったら幹事が負担しなければならぬと思うと、同窓生を探して電話をかけまくったり、本当に必死だった。(笑)なにしろ自然発生的に始まっただけに、その分苦勞もひとしおでしたね。

【鴨打】 幹事も第一回総会の頃は十五、六回生まで十名程度だったのが、五十九年の第三回総会の頃には三十一回生にまで広がっていました。

今度の二十周年記念総会の開催場所が第一回総会と同じ六本木というのも何か感慨深いものがありますね。因みに現在の幹事は四十九回生までの五十九名となっています。

【杠】 幹事会一つとっても、当時は会場を探すのに苦勞してましたね。喫茶店でやりたりもしてましたが、なにしろ金がかかり、金銭的にも幹事の負担が大きかった。昭和五十八年から代々木にあるこの佐世保市の東京事務所を使わせてもらえるようになってようやく幹事会の場所だけは心配しなくてすむようになった。

【真子】 第三回の総会を機に会としての体裁を整えようということで、きちんとした名簿を作り、会則も弁護士の宮田さんをお願いして作ってもらった。



左より土岐、桑島(長友)、真子、生山、杠、鴨打(副島)の各氏

【土岐】 宮田さん、その時に苦勞した事は？

【宮田】 まあ、できるだけ問題が出てこないように、曖昧に、ゆるやかにと…(笑)

【杠】 おかげで現在までほとんど手直しせずに済んでいる。(笑)

【鴨打】 この時に副会長をおくことになって、現会長の生山さんと私が務めることになりました。

【生山】 ところが木村氏が仕事が忙しくてどうにも会長を続けることができなくなり、第三回総会の後で交代することになった。

順番でいけば当然鴨打さんだったのに(笑)、珍しく遠慮して固辞されたものだから、私が会長となってしまった。思えばあれが運の尽きで、もうそろそろ引退したいと思うながらもその後ずつと会長をやらされている。(笑)

【土岐】 もうこのまま永代会長でもよろしいんじゃないですか(笑)。しかし、当時は会長もお若かったですよ。

【生山】 東京北星会を始めたころは五十代なんて一人もいなかったんだから(笑)。一回生でも四十七、八だったかな。あれからもう二十年だよ。東京北星会代表として本部の総会に出席を始めたのは昭和六十一年からだったが、すごいどしゃ降りの日で、ずぶ濡れのズボンで舞台に立って挨拶したのが忘れられない思い出になっている。

【杠】 総会で一番苦勞したのはイベントの内容でしたね。総会が終わったら、すぐ次の総会はどういう内容でやろうか考えている有様でした。

あの頃はみんな若かった。

る有様でした。

【鴨打】 第三回総会では卒業回毎に集合写真を撮ったりしたけれど、時間がかりすぎると不評だった。そうしたら次の総会では土岐さんが、よく観光地にあるようなベニヤ板に学生服とセーラー服の絵を描いて顔のところをくりぬいたものを作ってこられたものだから、皆無邪気に穴から首を出してキヤーカー喜んでいた(笑)。その後、クラブ毎に集まるなどの企画もし、それが野球部だった人に現在幹事を多く務めてもらっているきっかけにもなりました。

【土岐】 平成六年に第八回総会を東京プリンスホテルで開いた時には、本部に頼んで東京北星会の旗を作ってもらい、そのお披露目をしましたね。

【鴨打】 あの時は初めてのガーデンパーティー形式で、当日まで天気心配ばかりしていたけれど、四〇九名とこれまでの最大の参加者となりました。

【土岐】 八回生でもあったゲストの坂井先生がかなりのお酒を召されたあげく、校歌斉唱などで大活躍され(笑)、とても盛りあがった会になりました。

【鴨打】 三十一回生の橋口さんが総会のイベントで力を発揮され始めたのも、あの時バンドを入れて頂いてからです。今では総会のイベント企画に欠かせない存在になってしまわれた(笑)。

【土岐】 前回の第九回総会では三十三回生の浦田さんにプロシンガーとして素晴らしいステージをみせて頂きましたし、ほんと



足立(松瀬)さん



に若い人が活躍してくれるようになりまし
たね。

イベント以外の苦労というと、やっぱり名
簿作りでしょうね。総会の都度で作るとい
う訳ではないので名簿自体の整備も大変だ
ったけど、なによりも広告取りがきつかつ
た。こんな苦労するならよっぽど自分で金
を出そうかと思った位……(笑)。

まあ、全て手弁当でやっている訳だから、
よっぽどボランティア精神に溢れた人でな
いと幹事は務まらない。それだけに、總會
が盛会で成功した時の満足感といったら何
にも代えがたい(笑)。

總會以外で東京北星会としての活動とい
うと?

「土岐」 春高バレーに北高が出場した時に
横断幕を作って応援に行ったり、また幹事
の親睦会として始めたゴルフコンペも最近
は幹事以外の人も参加してもらい、年二回
開催しています。今後をもっと多くの会員
に参加してもらい、盛大なコンペにしたい
ですね。

ところで北星会として以外に各回毎の同
期会も盛んだときいていますね……

「鴨打」 私たち三回生はいくつもの学校が
寄せ集められて北高として発足した当時の
生徒であるため、学校時代からとても仲が
良かったんです。そういうこともあって、
現在も「東京花の三期生会」として昭和三十
六年から毎年欠かさず同期会を開いていま
す。近年は一泊旅行となっていて、今年は
五十人が集まりました。

若い力が発揮されるようになりましたね。

「生山」 四回生は六十歳の還暦の時から毎
年集まるようになった。それまでは四回生
だからということ、四年に一回の集まりだ
ったのを、還暦の年に箱根へ一泊旅行をし
たところ五十人程集まり、「努頑触斗会(ど
がんしょつとかい)」という名前をつけ、会
則も作った。まあ、四年に一回では元氣な
内に何回も集まらないということ(笑)、
それから年に一回の一泊旅行とそれ以外に
年三、四回は集まっている。旅行幹事は持
ち回りだけでも、一泊旅行を実施しない限
り交代できない決まりになっている。だん
だん出席者も決まってきたりという傾向にあ
るが、もっと多くの同期生が出席する楽し
い会にしたいと思っている。

「杠」 五回生は昭和二十八年の卒業なので、
「二八会」という名前です。われわれが北高
の正式な第一回生のようなもので、清水中
の卒業生が一番多かった。私の結婚式の時
に清水中の時の友達を呼んだのですが、彼
らが新婚旅行の見送りに東京駅まで来てく
れたところ、そこで清水中で同期だった女
性達にばったり出会う、そのほとんどが
北高でしたので、それがもって同期会が始
まったといういわくがあります。毎年集ま
っていますが、複数幹事制で五、六人位で
幹事を交代で務めています。その他に年二
回のゴルフコンペなど頻繁に会っているた
め、北星会となると出席率が悪くなるのが
悩みです。

東京北星会が結成される前は、先輩達の同
期会と呼ばれて出ることもありましたが、



カット／山口景昭(2回生)

当時は一年違うと雲の上の存在みたいな感じで(笑)、先輩達が恐かったし、やはり居心地が悪く、次第に呼ばれても行かなくなりました(笑)。

【真子】ほんと、えすかったですね。(突然の佐世保弁に一同爆笑)

【土岐】だけど今はすっかり様変わりしましたね。幹事会なんてこれだけ歳が離れている連中が集まって本当に和気藹々とやっている。むしろ違う世代と話すことを楽しんでる感さえありますね。

【生山】ライフスタイルの変化なのか、まだ年が若いから同窓会などに興味がもてないのか、とにかく最近の人は同窓会はおろか同期会すらやらなくなってきたのではないか。

しかし、同じ学校で学んだ仲間というのは大切な絆であることは間違いない。それを断ち切らないようにするには、まず同期会をやって、それを核にして組織化していくことが重要だと思います。

年寄りの思い出話ばかり聞いていますと時間もなくなりますし(笑)、諸先輩の遺言はこれ位にして(笑)、次代の北星会を担う若い人のご意見を伺いたいのです
が...

【桑島】生山会長がおっしゃられた通り、私達の世代は同窓会に対する意識はまだまだ低くて、総会に人を集めるのが大変な苦労です。今日、創設期のご苦労をお伺いして、今後も北星会が発展するよう力を尽くしたいと感じています。

今後の課題、若い世代の北星会参加。

【足立】北高も合同選抜になって以降、伝統の重みというか、昔の北高は凄かったんだというようなことが、話にはきいていてもなかなか実感できないようになってきています。私自身、在校中に母から何かにつけ「北高に行っているんだから」などと言われても、それがどういうことなのかわかりませんでした。ところが、東京北星会の幹事をやるようになって、諸先輩のお話を伺っていると、本当にこんな凄い学校だったんだ、昔の人は素晴らしい伝統を築いてこれたんだと肌を感じるようになりました。そういう経験から言うと、同期会だけでは駄目なんです。

私達には伝統を伝えることはまだできないんです。こればかりは、同窓会に参加して先輩に接し、お話を直に伺わなければ駄目なんです。そういう意味でも総会に若い人がもつともっと出席するように頑張らなければならぬと思います。

大変なお褒めを頂いて諸先輩も面映いお顔をなさっておりますが、若い方の力強いご意見で今日の座談会を閉めさせて頂きます。どうもありがとうございます。

平成九年十月二十日

佐世保市東京事務所にて

構成・文責：小川和彦(二十五回生)

それぞれの回、あがんとくがんとくふーけた話…
各回生の幹事の方に同窓の現状、活動模様などを報告していただきました。

むかし私も『オウム』だった

私が小学校に入学した年の夏、七月七日に支那事変（日中戦争）がはじまり、中学三年の夏、八月十五日に大東亜戦争が終わった。その間、私は日本は神国であり、天皇陛下は神様であると、修身の時間で教わり、ジンム、スイゼイ、と、天皇一二四代の名も、明治二年発布された難しい漢字の並ぶ教育勅語も、小学校低学年の頃に暗誦させられ、中学校では十分はかかる長い長い『軍人勅諭』を覚えさせられた。

を繰り返しませんという国の謝罪の象徴が新憲法の誕生であり、学制改革、即ち北高の創立だった、と思います。創立以来半世紀、果たして我々が描いていた世の中に発展してきたのだろうか。二十一世紀を次世代に託すにしろ、政治、経済、文化、あらゆる面で、未解決のまま先送りされた問題を未精算のまま託す訳にはいかないのではないかと。都合の悪い不愉快な過去を抹殺するのではなく、きちんと清算して託さなければ、次の世代が困るだろう。

かつて私たちが困ったように。
蓮尾 豊



カット／高祖一幸（4回生）

発足時の北高

長崎県立佐世保北高等学校が、アメリカ占領軍による教育改革の一環として発足したのは、昭和二十四年一月の事である。

当時佐世保には、旧制の公立中学、高等女学校は、昭和二十三年三月に新制高等学校に移行していた。旧制の男子中学校は五年、高等女学校は四年で卒業する事になっていた。新制高等学校に組織替えされたことよって、男子中学校の場合は一年、女子の高等女学校の場合は二年間卒業が延長されることになった。

名称は高等学校に変わっても校舎、教員、生徒共に従来のままだった。当時アメリカ占領軍長崎軍政部の教育官であったニプロ氏の指導により、新制高校の統廃合がなされ、男女共学が実施されたのである。ニプロ氏はアメリカで体育教師であったとのこと、占領直後に長崎県下各学校を廻り、アメリカ民主主義について講演、フォークダングスの普及に努めていた。

されると賛否両論が起きたが、占領軍の強力な教育政策によって、新学年を待つことなく実施された。

旧制の佐世保中学校、旧制佐世保第二中学校、旧制東和中学校、旧制佐世保高等女学校、旧制成徳高等女学校の五校を統合し、県立佐世保北高と県立佐世保南高の新しい学校を創立、教師はそれぞれ両校に配分、生徒は地域制によって玉屋あたりを境として、南北に振り分けられるのが原則であったが、実際は各人種々の思惑から、互いに越境通学する者がいたのでその境は必ずしも明確ではない。

北高の校舎となった成徳高女の校舎には、なお戦争中の黒い防空迷彩が施されていた。当初は、旧校長三人が在職されており、第一回の卒業式では、誰が式辞を述べられたか記憶にないが、女子生徒のソプラノの『蛍の光』の歌声には閉口した事を記憶している。

我々第二回生が北高に在籍したのはわずか一年三月に過ぎず、卒業生といっても校歌さえ満足には歌えない有り様である。

瀬野 清一郎

花の三期生

異性間に真の友情はあるか！

やや哲学論争風に気負い立つ。

O君の主張は『ある』だった。

デリカシーの割には蛮力な身

なり、服も帽子も窮屈そうな、大

柄のO君。

誰もが衣服を新調できるほど豊かな時代ではない。

高三の夏、朝鮮動乱が始まったが、

国中がグロテスクな特需ブームに

沸くのは、まだ先の話になる。

貧しくても心には、はなやぎがあ

った。急な男女共学にとまどうざ

わめきと、エポックメイキングな

時代の開放感ともいえた。

その秋、茶道部の女生徒に招かれ

たというO君は、お礼に映画の券

を渡してきたと話した。

人気洋画は当時学校宛の割当制で、

彼としてもやっと入手したはずの

ものだ。

数日後北高の坂道で、ぱらつき程

度の雨の中をゆつくりと相合傘で

下校するO君を目撃した。

薄紅色の模様が目にしみた。

ふつう相合傘となると、土手側を

足早に下っていくのだが……。右手

のグラウンドではラグビー部員の声

がこだましていた。

土手には野菊が見られた。

嗅ぐと、かすかだが香りもあった。

自分も、相合傘で下校する日があ

ったらそのときは、相手の胸のポ

ケットにさしてあげよう……。

英語の時間、教科書からはみ出し

て、花ことばの解説を受けたりし

た。ばらは愛、菊は真実……といっ

たぐあいだ。そして先生は、自分

で自由につくつてもいいのだとつ

けたした。

卒業も迫り、作る花言葉は、殆ど

『別れ』となつてしまった。

やがて皆はなればなれとなり、あ

れよあれよと現在六十なかば。だ

れいとうなく頭に花をつけて花の

三期生会とよび、年に一度は、関

東地区でも再会をかきねている。

O君こと大島幹敏君は、全体のま

とめ役として北星会初代会長もつ

とめた。病に倒れて今は亡いが、

彼こそ在学中から、花を手にした

幅広い友情の実践者だった。花の

三期生総会出席のため、久しぶり

に帰省した折り、大島君のあの大

胆な相合傘姿が懐かしく胸にこみ

あげてきた。

土手には、もう野菊はなかった。

黒田 隆

努頑触斗会(どがんしゅどかい)

北高に中学校があったことを知っ

ている人は少ないでしょう。

四回生は学制改革により旧制最後

の学年となり、旧制中学三年生の

三学期からは新制中学三年生とし

て、今まで別の学校であった五つ

の学校の男女が一緒になり、北高

併設中学校として同じ校舎で三ヶ

月間学んだという貴重な体験をし

た学年です。北高一年生に最初に

入学した学年でもあります。

中学・高校と三年三ヶ月を北高で

過ごした我々も、月日の経つのは

早いもので、すでに還暦を過ぎて

高齢者の仲間入りに近づいて来た

年代になっています。

同期の集まりは四年に一回程度で

したが、還暦旅行をした機会に、

東京近郊に在住する四回生と還暦

旅行に参加した同期生を会員にし

た、努頑触斗会(どがんしゅどかい)

という会の名称をつけて、

健康に留意し、有意義な人生を過

ごそうと、さらに会員の交流を深

め、親睦を図っています。

旅行幹事を決めて、年間の行事を

計画し、実行しています。特に、

一年に一回は必ず宿泊旅行をする

ことにしており、この旅行はみんなが期待しているので、納得でき

る旅行を實行しないと、任期が来

ても次期幹事を指名できず、幹事

を継続することになっていきます。

年会費の納入は順調で、運営資金

も確保でき、会も活発な活動がで

きるようになりました。

慶弔規定を設けていますが、この

努頑触斗会に入っているメンバー

は皆さん元気で、幸運にも会費足

から今日まで弔慰金の対象になる

人は一人もないという状況で、

この会員であることが健康の源に

なっているのではないのでしょうか。

今後、この状態が長く続くこと

を願っています。

平成九年からは、配偶者も対象に

慶弔金を出すことに決めました。

結婚は、年齢に関係なく喜ばしい

ことであり、独身者の結婚が実現

した時にはお祝い金を出すように

決めています。まだ該当者は出

ていません。早く結婚する人がい

て、祝い金を受け取ってほしいと

期待しています。

これから、集まる機会を作り、

大いに、人生を楽しみましょう。

生山 康夫

『俳句』に魅せられて

還暦も過ぎたある晩、日本橋の小料理屋で久し振りに野見山昭彦君と飲んだ。

一献傾けながら『もし暇になったら何をするか』という話になり、彼は『昔俳句をやった事があるの、それをやりたい』と言った。なかなか良い趣味だと感じながら中西敏君の事を思い出していた。

彼の俳句歴はすでに十年を越えて、名句を拝見した事もあるが、『面白いからやってみないか』と勧められていた。

何日か過ぎた早春のある日、敬愛する作家司馬遼太郎が亡くなった。こよなく愛したという菜の花一色に包まれた葬儀の模様を、TVは報じていた。

感動的なその映像を見ている内に、ふと出てきたのが

菜の花に

うずもれて逝く

遼太郎

『遅まきながらやってみようか』気持ち揺れ動いた。

そしてまず歳時記を買い求め、熱が冷めない内にと、芭蕉、蕪村、子規、虚子などの句集や、秋桜子、風生、などの解説書を次々と読み漁った。



カット／山口景昭(2回生)

その春、南里克良君達有志と宮崎でゴルフの機会に恵まれた。

思いがけず歳時記持参で南国吟行の旅となり、プラスアルファの誠に楽しいツアーであった。

爾来一年半が過ぎ、俳句手帳も増えた。

若し生活に色彩があるとするなら、俳句も又同じである。

目や心に映る景色を、十七文字に託し平成九年の夏も、幾つかの風景を残して過ぎ去ろうとしている。

山里の午後の鶏鳴柿青し

あどけなき願ひ叶えよ天の川

美しき故にかなしき遠花火

夏十和田何を秘するか湖青し

奥入瀬に晩夏そろりと忍び寄り

天地は静大にして有情である。

これからも新しい句を詠み続けていきたい。心の趣くままに…

川島勉

苦もあり楽もありて

私達六期生が東京で初めて会合をもったのは昭和三十五、六年頃新宿の『牛や』に十四、五人位集まったでしょうか…。

以来四十年近く途切れる事無く、毎回五十人近くが集まっています。『国民学校』入学の年に戦争勃発。『欲しがりません、勝つまでは』と耐える事を強いられ昭和二十年六月の大空襲で佐世保の街も廃墟と化しました。

終戦後は遠くの学校に間借りしての二部授業、一クラス六十五名という教室で、教科書のあちこちを先生の指示通りに墨で消した記憶は、ずっと心に引つ掛けています。

戦後の混乱期に新制中学校から新制高校へ入学、その後の歳月も含めて同じ時代を生きて来た事は、多くを語らずとも通じ合う何かがあるような気がします。

所で、北高時代を思い返すと、放課後は殆ど新聞部の部室で、タブロイド版四頁を埋めるのに四苦八苦していました。当時部員は七、八名。それまで編集に携わってきた三年生が受験勉強のために退き戦力不足は否めません。

それでも何とか原稿を集め、割付をして印刷所に渡した時の解放感、

初校が刷り上がった時の嬉しきは格別でした。

辛かったのは広告とり。浜田町から上京町にいたる本通りを一軒一軒、お願いして歩きました。

育文堂書店、西沢洋品店、高田薬局、松月堂、玉屋に親和銀行等、よく協力して下さいました。

その大切な広告収入の一割分を食金不能と偽って『チャンポンを食べに行こう』と誰かが言い出し、市役所裏の『かどや』へ…。すぐに顧問の先生にばれ、大目玉をくいました。

こうした悪事は後にも先にも一回きりだった事を申し添えます。還暦を過ぎた今、周辺必ずしも明るい話題ばかりではありません。それだけに友達の大切さと有難さを感じます。

絆により深める北星会の存在は大きく、これまで育てられた役員の方々のご苦労に感謝し、お礼を申し上げます。

深川 秀子



カット／山口英昭(6回生)

仰げば尊し我が師の恩

佐世保北高を卒業して四十三年、七回生も六十一歳、定年で仕事を離れた人、まだまだ現役で頑張っている人もいます。

私は卒業と同時に当時集団就職の草分けとして七人の仲間と共に故郷を後にして上京しました。以来四十三年、寝具卸業の仕事をしています。

卒業と同時に書きましたが卒業式一カ月前、佐世保駅で大勢の人に見送られて出発したので卒業式に出席していません。

私は、市内の中学でなく西彼杵郡西海町出身、当時北高入試は難関で二、三人しか入学出来ず、幸運にも合格した事を、今でも良かったと思っています。

在学中の思い出は、やはり先生との触れ合いです。

一年は外尾先生『人生六分の俠氣四分の熱』と、旧制高校の寮歌を数多く教えていただきました。

佐世保工業に転勤後も上京なさった時はお会いしたものでした。

二年は栗山先生、余り年が離れていなかったで、兄貴分のような気分、先生が上京の折りは浅草、六本木等で酒を飲み交わしました。三年は伊藤先生、受験勉強を必要

としないクラスで、種々ご苦労が多かった事と思います。

佐世保の仲間は今でも先生の命日に集まり『むつごろう会』を結成、偲ぶ会を開いています。

伊藤先生は『本を手放すな、頭を明晰にする事が若さを保つ秘訣だ』と常々おっしゃっていました。

七回から十四回まで数多くの人が東京就職で上京しましたが、殆ど竹末先生のお世話になりました。

東京の親代わりが先生のお兄さん椎葉二様で、小生の結婚の時は仲人をして下さいました。

栄岩校長先生は、退職後もいつも年賀状を下さり、就職組の事を大変心配なさっていました。

江頭先生には簿記を教わり、検定簿記三級合格、役立ちました。多感な年頃に北高で学べた事は、今でも誇りに思っています。

上京直後、将来について悩んでいた時、同級の友人からの手紙にあった『ふるさと』の歌の一節、『志を果して、いつの日にか還らん、山は碧き故郷、水は清き故郷』

今でも忘れる事は出来ません。

太田 英男

会費四〇〇円から始まった関東北八会

会費四〇〇円（女性三〇〇円）という案内状で、八回生の同期会は始まりました。卒業した翌年の昭和三十三年六月でした。桁違いかと思われるような会費ですが、集団就職一年目または学生で仕送りを受けている者が殆どで、決して安い額でなかったように思います。当初は有志が声を掛け合い、ガリ版を使って案内状を作成したりしましたが、何某方、寮、アパートなど住所の変動も多く、マンションという宛先はなかったようです。参加者も三十名位でしたが殆ど男性で、当時の佐世保との距離感の大きさもあつたせいか、随分意気盛んに盛り上がっていました。

十回目頃（会費三千円位）から幹事を選出して、その幹事が翌年の幹事を指名するという、現在の方式になりました。

二十回目頃（会費六千円位）から女性の参加も多くなり、一次会のメンバーが殆ど二次会にも参加するようにになりました。また、名古屋、関西方面からの常連も多くなり、二次会の会場、費用等を考慮すると宿泊付きにした方が良くとの意見が出てきて、アンケートを取ったりしました。

女性の参加が激減するのではないかと心配しながらも、三十回目に湯河原の旅館で初めての宿泊付きの会を行いました。結果は予想に反して女性の参加も多く、ほぼ男女同数で、総数でも従来と変わらない位でした。中年になってきたせいか、温泉付きが好評のため、その後近郊を利用した宿泊セット方式が続いていますが、中には宿泊には参加出来ないという人もあり、そういう人のためには一昨年前の幹事が実施した、都内のホテルを利用した会で、一次会のみに参加も出来るという方法も、数年に一度実施した方がいと思います。

中里 徹也



カット/畑農照雄(5回生)

九回生便り

故郷「佐世保」を離れて四十年が経とうとしている。佐世保で暮らした十七年の倍以上の年月を異郷で暮らした事となる。

米軍基地の街として狂瀝と繁栄の中で多感な高校生活を送った。高校時代が一番懐かしく輝いていた様に思えるのは年を取った証拠かもしれない。

第二校友歌だったと思うが「北の都に秋たけて、我ら二十の夢数う、男女の住む国に、二八に還る術もなし」と歌った様に、あの頃の十六歳には何としても還れない。薄くなった頭や顔の皺、丸くなった背、身体的な衰えは隠しようもないが、気持ちだけはあの頃に還れる時がある。

毎年十一月に招集される同窓会の席では皆が十六歳の紅顔の美少年少女に還っている。

故郷の訛り丸出しでの「どがんによった!」「なんば言いよつか」を聞くともう高校三年生である。疎遠になった友の消息、お世話になった教師の安否を問い、お互いの消息を喜び合う。

酒が周り、近況報告も一渡り落ち着くと行き着く話題は高校での事となる。

「カンペば見つかつてガラレタもんね!」「ガラレタ」何と懐かしい響きである事か!

近頃は叱られる事もなくなりまして。誰かに叱られたい気がします。そんな東京近辺在住の九回生の集まりも、もう二十回を数える事となりました。

年齢六十を逆にした十六に還りたい人は、出席をお待ちしております。

詳細は「相原」まで問い合わせ下さい。

高木久雄



カット/山口景昭(2回生)

二つのビッグ・バン

最初に、東京北星会二十周年を祝し、同時に歴代の幹事の皆様に感謝の意を表したいと思います。

さて、我が日本国は大変革期に入りつつある。同様に我が十回生も人生の変革期、つまり人生いかに生きるかのビッグ・バンを迎えつつある。周知の通り、ビッグ・バンとは、宇宙とか大きな星が大爆発を起こして新しい世界を創造することであり、近くは十年前に英国で実施された証券界の大改革の時に使われた言葉である。

振り返ってみると、日本国は戦後五十年間欧米諸国を刮目させるに充分な大発展を遂げた。そして、最近数年間は「制度疲労症候群」を呈し、その克服策として政治・行政・財政・教育・金融などあらゆる分野でビッグ・バンの実務が急がれている。同様に我が十回生も、日本経済発展の渦中で働き蜂として貢献した。そして、ぼつぼつ「肉体疲労症候群」を呈しはじめている。人生八十年に向けて、欧米流の人生を楽しむ方向へギア・チェンジの必要がある。

我が十回生の定期会食は、今では二十人ぐらいの規模になり、隔月に開催されている。ゴルフ会もある。

る。二十年くらい前だったか、二人三人の偶然の出会いに端を発し、自然に輪が広がっていった。東京北星会十回生の幹事もスムーズに決まっていた。初代が森山君。

夫婦揃って北高同期卒とあって、面倒見の良いこと、それは最高であった。彼が転勤して、二代目が山口君。仲間から半ば強制的にかつぎだされたせいとか、ぶつぶつ文句を言うのは大目に見ざるを得ない。十数年に亘り、サブ幹事の土山君と共に責務を充分果たしている。そのうち、長崎放送に勤める永友君が東京に転勤してきた。本命到来で、彼が定期会食会の実質的幹事を引き受けた。今では、会食の場所も、同社のビル内にある「吉宗」で定着しつつある。このほか、強力な助っ人もいる。猪須嬢は自分が経営する新宿の「ミミ」を我が十回生のために赤字覚悟で開放してくれている。

共有体験をもつ人間同士の集まりはとにかく楽しい。新人は大歓迎! 熟年の「ビッグ・バン」も二十一世紀も佐世保弁の渦で乗り切ろう! 水谷 千伍

11回卒業生のみなさん!お元気ですか!
関東の同期会も元気です。平成9年6月28日の元気印しです。



増田 赤坂(富田) 山口 中山 野崎 猪原 今里 団 池田 野口 石橋 石橋 中里 大春
平井 木下 池田 松本 福田 伊澤 山口 矢野 蒲浦 落合 小泉
(吉川) (松永) (布江) (小林) (井上) (坂田) (本田) (吉田) (原) (野島) (白井)
向 古川 菅原 田吉 後藤 川原田 川崎 太田

十二回生同期会回顧録

今年で関東地区同期会は三十年目を迎えます。継続は力なり幹事の君は大変苦労したことと思います。ここに三十年を振り返って幹事の君に感謝の意を表したいと思ひます。又三十年の活動状況から見ても三時期に分けられそれぞれの時期の想い出を記したいと思ひます。

《創成期》(昭和四十二年～五十年) 三人の麻雀仲間(中村、加藤古賀)が「東京にいる同級生を集めてみようや」と言う事から始まり、男性ばかり十八名、二十五名が出席、同期会というより夜の巷をさまよふのが目的だったようです?又女性軍は子育てに忙しい時期だったようで出席も難しい状況の時代でした。

《苦難の時期》(昭和五十一年～六十年) 女性軍が出席するようになり出席人数も二十五名、四十名に増加しましたが会場探し、出席人数の確認等で大変苦労が多かったようです。毎年同期会開催月が近くなると「今年は中止にしようか」とこの時期毎年思ったそうです。男性は特に職場においても働き盛り重要な仕事を任せられ又転勤も多くスケジュール調整が難しく開催時期間近まで電話連絡が大変

だったようです。

《円熟期》(昭和六十二年～平成九年) 出席人数も五十名、六十名近くまでふくれあがり開催会場は毎年二次会も楽しく行える場所を探し、又出席者は北は北海道から南は九州まで日本各地から関東地区同期会に集まるようになりました。毎年開催しても出席人数は減る事もなく関東地区同期会を大いに楽しむために出席するようになりました。

毎年開催しているにも関わらず毎回話も尽きず夜を徹して語り合うことが常となり正に仕事のことも家庭のことも一時わすれ佐世保北高の良き青春時代を語りあう同期会の円熟期にはいっていると思われまふ。

我々十二回生の夢は近い将来関東地区同期会で百名以上を出席させることです。この人数は同期卒業生の約二十五%にあたりまふ。

十二回生関東地区同期会が益々円熟することにより、東京北星会の発展に少しでも貢献出来ればと考えます。最後に同期会毎回連続出席の加藤君、中村君ご苦労様同期会が消滅するまで継続して下さい。次は《完成期》目指して頑張ろう。川崎敏明

十三回生、東京物語

当時の日本は高度成長へと向かっていた。佐世保駅での哀愁列車・急行「西海」号の涙の別れから三十七年が夢の如く過ぎ、定年を間近にした五十五歳になった。

今では百名近い「不確定」同期生が関東地区に在住しているようだ。不定期に開く宴には座席がなくなる程になった。昭和四十三年に始めた最初のクラス会から三十年が過ぎ、孫を持つ人も出てきた。

当時、東京での同期の友は数人だったが口コミで十三回生の「東京孤児」が次々に判明したのは、古川忠男君の協力が大きかった。

東京北星会総会への出席者数では第二回から上位を独走してきたが、最近の後輩の勢いに押されがちになつてはいるものの、まだまだ恥ずかしくない数は堅持している。

同期生の間には無言の約束があり、宴席での喧嘩、トラブルが一度もないことは大きな誇りだ。みんなが高校時代に戻り、お互いが愛称で呼び合い、馬鹿な話と冗談は言っても、仕事の話と各々の台所と財布を覗かないことを礼儀として弁えている。時々佐世保から恩師友達が上京してくるが、その都度臨時宴会になる。御厨、浜中君が

連絡役を務めてくれている。古川岩永、赤瀬、樋口、渡辺、坂井、酒見、宮下、御厨、船津、浜中、前田君は皆勤賞だ。

私が主任幹事を三十年間務めてきたが、平成三年十月に「脳梗塞」で倒れ治療に専念したため、第六回総会からは古川、御厨、酒見、岩永、浜中君がフォローしてくれた。おかげで今はすっかり回復し、その真心には心底感謝している。宴開催の度に全員出席を期待して必ず連絡するのだが、理由のない欠席の返信にはいつもがっかりさせられる。名古屋の中山雅人、大阪の五考（法師山）君の毎回出席には頭が下がる。本拠佐世保では藤井剛君が会長で、五年周期に恩師を招いて開いている。福岡地区は、浅田勲君が連絡会長役を務めている。関西・東海地区は杉野彰典、中山雅人、山口聖治君が連絡幹事になり、合同で毎年大阪か名古屋の何れかで開催している。同期生の中には若くして他界した人もいる。杖をつく歳になつても笑顔を忘れず、佐世保を涙で後にしたみんなが末永く元気で、健康で、家庭円満で、楽しい酒を酌み交わせる仲間であり続けることを願って止まない。

浜副洋三

佐世保北高 第14期生

(昭和37年卒)

同期会は、毎年3回以上行われ、参加者は関東近辺の人達だけでなく、全国から30名(男女半数位)近くの人達が出席し、盛大に行われています。是非、皆様の参加をお待ちしています。

〈一年間の定例懇親会〉

- 新年会(1月)
- 懇親会(5月)
(隔年で北星会の同窓会)
- 秋の親睦旅行(10月)
(一泊二日)
- ゴルフ会(適宜)



▲秋の一泊親睦旅行会(益子にて)

集、合、



〈連絡先〉 山中 邦彦

楽しき哉！東京三八（サンパチ）会

我々十五回生はケネディ暗殺の年の春母校を巣立った。光陰矢の如し！爾来今年で丁度三十五年。往時の紅顔の美少年と花も恥じらう乙女達も今や孫の話が話題に上る年頃と相成った。まさに「三八に

ならぬそして場違いの佐世保弁混じりの声高な談笑と高歌放吟が現出するのである。

帰る術もなし」嗚呼（詠嘆）！現在首都圏在住（出稼ぎ）の同期生は七十五名（男四十七名、女二十八名）、皆一家の大黒柱や主婦として活躍中である。当同期会は卒業年に因んで「東京三八（サンパチ）会」の名称で活動している。以前は女性中心の小ぢんまりとした活動だったが、六年前の野郎共の大量入会以来俄かに股賑を極める様になり、毎年忘年会等二〜三回集まって、懇親を深めている。全員集合は難しいが、二十五〜三十名が集い、ワイワイガヤガヤ大いに食べて飲んで喋って、ノッて来た所で二次会へが基本パターン。二次会では歌ってヤジッて踊ってシヤベッて夜の更けるのを忘れる程である。とに角当日は、近況報告や懐旧談に始まって次第に盛り上がり、二次会の頃には中学・高校時代にタイムスリップ（退行現象？イヤ童心に帰って）する者が続出し、深夜の都心の盛り場に時

会員数は転勤・転居等による減少は避けられぬが、その分を新規会員の発見によりカバーしほゞ横這いで推移している。又会員間の情報ネットワークの一助として、ナント機関紙「三八かわら版」迄発行しているのである（拍手）。今後はインターネット利用も考慮中（？）とか。当地域には未判明の同期生がもつというと思われるので引続き探索活動に力を入れ、更なる発展を図って行きたい。

全国的同期生&同窓生で十五回生の情報がありましたら、事務局（江頭、瀬戸口、中谷（長山）迄ご連絡下さい。（薄謝進呈）

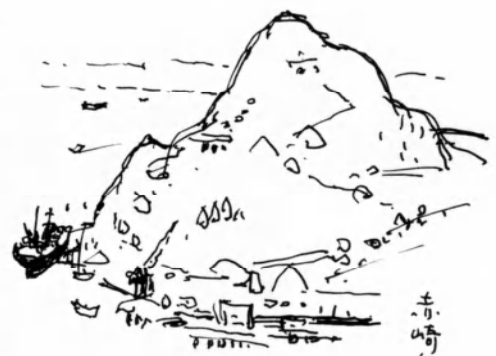
賑やかで楽しい三八会だが、今後は時には趣向を変えて、観劇等のカルチャー面やゴルフ、ボーリング等のスポーツ面にも新機軸を求めて行きたい（ホッネは老後のボケ防止の為だろうテカ？・ピンポーン）。マ、とにかく全国の同期生の仲間達、今後何度も集まれる様元気で長生きシヨウ！

上京の折はご一報を。
江頭忠政

東京三九会・全員集合

我々十六回生は、東京北星会に於いてほとんど影の薄い存在ですが、北高三十九年卒業の「三九会」として地元佐世保をはじめ、全国的に名を馳せております。

東京三九会では一〜二ヶ月毎の例会と、年一度の総会、二年毎の「大人の修学旅行」などに多彩な活動を続けております。これも偏に会員同志の低レベルでの友情と、何でも遠慮なく話せる開放的な雰囲気、皆を集合させる要因かと思われまふ。会の発足から十数年を経た今でも、故郷佐世保での青春の頃を語り合い、ストレス発散の



カット／山口景昭（2回生）

場として延々十時間にも及ぶことも度々です。

又現在の社会的地位や家族関係等を主たる話題にしない事も会が継続できているもう一つの要因かも知れません。

我々の人生もそろそろ先が見えてきました。酒や食事がうまいと感じる、三九会へ出席してみても如何ですか？素晴らしい二度目の青春が貴方をまっています。

尚、この度、素晴らしい三九会の【会旗】が出来上がりました。慶弔の折是非ご利用ください。

連絡先・佐世保三九会

会長 古川泰博

島中 勝

あれから、早三十年わが青春はさせば

平成七年十二月十二日年末のあわただしいなか、佐世保北高十七回生卒業三十周年記念同窓会を開催しました。

長崎市より有川幸利先生をゲストに佐世保、関西からを含め総勢四十六名のなつかしい面々が大集合！昭和三十八年～四十年学生時代のヒット曲をBGMに久方ぶりに近況を語り合う心温まる時間を過ごすことが出来ました。

夕陽に染まる九十九島の美しい風景を今でも忘れることなく、青春を佐世保で過ごしたご同輩又あったかー！

坂本廉三

【十七回生連絡先】



カット／高祖一幸（4回生）

次に、向かって！

平成九年に卒業満三十年を迎えた。佐世保、長崎、福岡、大阪、そして東京に地区事務局を置き各地区持ち回りで開催してきた全国同期会も一昨年の東京で一巡し、昨年の佐世保での三十年記念同期会をもって一応の区切りがついた。

毎回百名を超える同期生が全国から駆けつけ、それこそ夜を徹して歓談しては大いに満足し、次回の再会を固く誓い合って夫々の居場所へと帰って行ったものだ。

さて次回からはどうしよう、結論はまだ出ていない。勿論地区内では会う機会は度々あるが、全国規模となるとおそらく五年毎の区切りの年々でのこととなるであろう。それではあと何回参加できるかな？「健康でありさえすれば、限りなく参加するさ。」みんなに共通した認識であろう。

東京地区の同期会は毎年五月もしくは六月、総会がある年には二次会として開催しており、三十名から五十名が参加している。

東京地区は愛知・岐阜県・東関東までの百二十数名を名簿上で把握していて、案内状は返信の有無に関わらず毎回発送しつづけている。これは大変な労力である。しかし

最新の住所を把握する上では最良の方法である。また何かしら近況等が書き添えてあれば、これを読むのが実に楽しいものだ。

子年生まれば、愈々五十歳に手が届いた。細かな字を読む際には、老眼鏡が手放せなくなった。それでいて平成八年秋から始まった電子メールの輪が急速に広がっている。メインステーションに送信すると、全員に一斉に配信するシステムも確立している。それこそ「佐世保弁」が西へ東へと飛び交っている。更にホームページも開設しており、卒業時にはあるが写真付き名簿、各地区と佐世保の情報等を掲載している。

アドレスは次のとおりである。

・north@listsar.miyazaki-med.ac.jp

http://as.miyazaki-med.ac.jp/north/

なお、東京地区の事務局は井手善敏君が務めてくれている。

【連絡先】

何かにつけ区切りをつけることを迫られている世代ではあるが、次に向かつてまた前進。

久保誠

不思議、不思議の北高

今年もまた年に一度の紫集会が近づいてきました。私たち第二十回卒業生がこの東京に集まるようになって早十回目。なんとなくメンバーは決まってきたものの、ひょっこり顔を出す珍しい人、遠く関西から来てくれる人、転勤で私たちの仲間入りをした人と、年に一度の楽しみは続いています。

三十年以上も前の高校時代。何と私の人生の中で一番何もしなかった三年間。部活もせず、勉強もせず、遊びもせず(?)の、人生の汚点(?)と想っていた三年間で、す。なのに、時を経てみますと、この三年間が、いつも忙しく突っ走っている私に色々な事を気付かせてくれ、思いがけずも今の私がいるような気がしてなりません。

あーとても不思議。

それに年に一度の紫集会で仲間たちと会い、たわいない語らいをし、近況を話し、聞き、そうする事がとても心なごみ、どうってことないのに楽しく、また来年も会えればいいなという思いで、煩雑な生活の中にふと何らかの影響を与えてくれるような気がします。これもまた不思議。

そう、同期生だけではないのです。

心なごませてくれる不思議は。ここ数年で私のまわりに北高の先輩や後輩がいました。子供の小学校の先生がひとり。とても熱心な知的な女性。たぶん二つ後輩。嬉しいじゃないですか。みんな頑張っているなっておもいました。

次に子供の中学校にひとり。これがなんと副校長先生。ある会合でPTAの仲間が私の事を呼びました。「佐世保北高のマドンナ」と。

(過大な評価ですが。)すると副校長が「佐世保北高生は誰ね」です。

驚きました。四つ先輩です。さらにもうひとり。「私も佐世保北高です」。

えっもうひとり北高のマドンナがいるよ。四つ後輩です。

一年近く共にPTAで頑張っていた仲間です。本当に嬉しいじゃないですか。みんな頑張っているのです。

それに、四つ先輩の副校長先生にはすっかりお世話になりました。

他校に転出なさったあと、子供のバスケット部の難問を色々アドバイスしていただき、かげでとてもお力添えを頂きました。

これも先輩だからと気軽に相談出来たおかげです。不思議、不思議の佐世保北高。

これからもどうってことないのに、どうってことあるのでしょうか。

小河 令子

幹事からのメッセージ

われわれの母校である長崎県立佐世保北高等学校が創立五十周年目、また、東京北星会が発足二十周年を迎えるにあたり、卒業生としてまた東京北星会の一員として、感慨無量の感が致します。

振り替えば、昭和四十四年三月卒業以来、早くも二十一年の歳月が経過しようとしておりますが、我々二十一回卒業生の皆様におかれましては、それぞれの地域、立場でご活躍のことと推察致しております。

この節目の年を機に、今まで交流の乏しかった我々二十一回生も、より一層、相互の情報交換を行い、連絡を密にし連帯を深め、懐かしい思い出話などをお互いゆつくり語り合えるような機会を持つ事ができるように努力していきたいと存じますので、何卒ご協力頂戴たくお願い致します。

なお、首都圏にお住まいの皆様方には、非力ではありますが、不肖この私が東京北星会の幹事を承っておりますので、お知り合いの方にお声を掛けて頂き、同級生の近況等をお知らせ頂ければ、幸甚に存じます。

また、佐世保の同期会(代表世話

人は、六組の岡崎公一氏と四組の岡井正明氏(中心)と福岡北星会(幹事は十組の朝長一敏氏)から、平成十年八月十四日に佐世保で三十周年記念の同期会開催を計画しているの、東京方面在住の皆様も是非ご参集いただきたい、との連絡を受けております。小生も出席を予定しておりますので、八月帰省予定の方は、日程調整の上、ご参加下さるようお願いいたします。

さて、四十代の後半ともなりますと、今までただひたすら前進してきた各自の人生にも一服し、束の間でも、過ぎ去りし己の軌跡を顧みたくなるものです。そのような時こそ、東京北星会の幹事として役立って参りたいと思っております。

二十一回生皆様方の暖かいご支援とご協力を、重ねてお願い申し上げます。

最後になりましたが「北高」のますますのご発展と、卒業生各位のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

吉武 大志



カット／畑農照雄(5回生)

同期の集まりの強化を願って

私たち二十二回生が北高に入学した年は、米空母エンタープライズが初めて佐世保に寄港した年でしたので、もう三十年も前のことになりました。当然のことながら、皆それぞれの歳になってしまいましたが、

東京周辺に在住する我が同期生は、揺り籠から墓場までとは行きませんが、実に多彩な分野で活躍しています。そして、何かあればいつでも相談できる色々の分野で活躍している友人たちの存在は、とても心強いものです。

同期の集まりとしては、これまでいくつかのグループでは、それぞれよく集まったり一緒に遊んだりして来ているようですが、同期全体での活動というものは、決して盛んではありませんでした。これからは、今回の総会のような機会をとらえながら、同期全体の活動も強めていけたらと願っています。会社等に勤めている人も、前に比べると転勤はずつと少なくなってきたようですし、女性の方も子育てが終わりかけて来た人も多くなっているようです。これまでより一層まとまった同窓会の活動が可能状況が生まれてきているので

はないかと思っています。

さしあたっては、少人数でもいいのでゴルフコンペからでも始められないかと考えています。特別な方法はないでしょうから、ボチボチと、少しずつでも時間を割きつつ、まめにやってみようと思います。一桁の先輩たちの団結力にはかなうべくもありませんが、先を見ながら行きたいと思っています。

宮田 学



カット/山口景昭(2回生)

中年パワーを爆発させましょう！
二十四回生の仲間たちへ

我々が北高に入学したS四十四年は、学生運動が東大安田講堂闘争でピークを迎え、高校にも学園紛争が飛び火していた頃であった。北高でも「バリケード封鎖」「卒業式乱入事件」と全国に名を轟かせる事件が続き、否応なしに政治に目を向けさせられた。そんな中で起こったS四十五年十一月の三島由紀夫割腹自決には大きな衝撃を受けたものだった。

また、日本経済は高度経済成長の真っ只中にあり、GNPが世界第二位に躍り出たと言われた頃、それを象徴するような大阪万博が開かれた。お陰で二年生の時に修学旅行を経験することができ、各国・企業のパビリオンに目を見張り、豊かな未来の到来を実感したものだ。

音楽の世界ではビートルズが解散し、一つの時代が終わった頃、日本ではフォークソングが支持され「戦争を知らない子供たち」「あの素晴らしい愛をもう一度」など良い曲がたくさん作られ、深夜放送に聞き入っていたものだ。

高校を卒業して四半世紀が過ぎ、とうに不惑を超えた今も、あの三

年間は鮮明な思い出として心の中で存在感を持っている。今いる自分の原点がそこにあると主張している。

政治について論じ合い、人生・愛について語り合う中で、自分を見つめ進むべき方向を見つけようとしたあの頃。そして、それが見つかるうと見つかるまいと否応なしに、人生最初の進路を選択することになった。その後の結果がどうあれ、高校の卒業が全ての出発点であった。

仕事で責任が増し、家庭でも子供との距離が難しくなってきたこの頃、人生の充実感を感じる一方で、ふと、あの特別の選択がなかったかとおもうことがある。ないと分かっている、別の生き方への憧れと表現したらよいのか、そういう感情に襲われたことがある。

そういう時に、あの三年間を同じく生きた仲間たちに無性に会いたくなる。会って自分を確かめたいのかも知れない。会うとたちまち二十五年前にタイムスリップし居心地のよい気分になる。そんな時間がたまには必要なのかもしれないと、近頃思う。

武藤 正典

不惑を過ぎて

北高が創立五十周年という事は、我々の年が丁度その真ん中にある訳であり、「光陰矢のごとし」とはいえ在学時の事がはるか昔に思われ、感慨もひとしおである。

思えば私が東京北星会の幹事として最初に関わってから、はや十五年が、経過している。一時期転勤で東京を離れた間、山口まゆみさんらが幹事を務めてくれていたが六年前に東京に戻り幹事長に挨拶状を出した途端、即座に電話で呼び出され、再び幹事を引き受けることとなった。

とはいえ、東京北星会の幹事としてはそこそこの務めを果たしてはいるものの、同期のまとめとしては、はなはだ心もとないものがある。時には同期で集まってゴルフコンペを行い、その後五反田の簡易保険ホール（ゆうぽーと）の裏に同期の中村君が開いた「中村」という寿司屋で旧交を温め合っているらしいが、私がゴルフをやらないので参加すらしていない有様である。全く申し訳ないと思っており、なんとか定例的な同期の集まりを企画したいと考えている。もう暫く時間を与えて欲しい。さて、同期にとって嬉しいニュー

スが一つある。在校時代に野球部で活躍していた公文兄弟の健一君が、母校の体育の教師になり、さらに母校出身として初めて野球部の監督に就任したとのこと。甲子園を目指す母校にさらなる声援を送りたい。

東京北星会の関係では、平成八年に、二十四回生幹事の近藤恵一氏に窓口となって頂いて、私の勤務先が保有している横尾忠則氏や、日比野克彦氏の超大作をはじめとするアート作品のオリジナルを、鹿子前に出来た佐世保パールシー・リゾートに無償で無期限貸出を行った。これなどは、東京北星会の活動がなければ実現しなかったもので、一つの成果と言えるよう。佐世保に帰省された時にはぜひ訪ねて、それらの作品群を見て頂きたいと思っている。

ともあれ、そろそろ体もあちこちオーバーホールが必要となりつつある年齢となってきましたが、精一杯頑張るつもりですので、同期のことでなにかしらのことがあれば、ぜひ声を掛けてもらいたいし、近況等もご連絡をお待ちしております。

小川 和彦

都合付けて参加しましょう！

私が東京北星会の幹事になったのが八十六年で、それ以来十二年が経過しました。その間に今回も含めて七回目の総会を迎えることになります。

同期生が集まる機会としては、総会の他に新年会がありますが、新年会は三十人前後集まるのに、総会はいつもひとケタで寂しい思いをしているのが現状です。

実は、新年会も以前はやったりやらなかったり、やっても十人来るかどうかという状態だったので、九十五年から様子が変わりました。というのは、九十四年八月に恒例の卒業二十周年パーティーを佐世保で行った際、佐世保在住の同期生が、ほとんど全ての同期生の住所を調べ上げてくれたおかげで、首都圏在住の同期生が八十人程いることがわかったからです。九十六年一月の新年会は十五人。まだまだ多くはなかったのですが、東京では新記録でした。さらに三月には北川誠一郎君の送別会。佐世保の長崎短期大学に転職することになったので、まだ同期会に出たことがないという彼のために開いたところ、何と三十五人も集まって大幅な記録更新となりました。



カット／畑農照雄（5回生）

おまけに、彼は青い目の可愛い嫁さんを連れてきて、大いに盛り上がった次第です。

珍しく年に二回も開いたと思ったら、今度は杉原浩三君の送別会を六月に開くことになりました。第一勸銀トレーニーとして派遣されていた彼が、任期を終え親和銀行に戻るようになったのです。この時も三十五人が集まり盛会でした。これだけ集まったのは、クラス幹事を決めて連絡を分担したことも一要因です。参加者の顔ぶれは、各々の都合があり、毎回一致するわけではありませんが、首都圏外からの参加者もあります。新年会も総会も、都合さえつければどこからでも参加してもらいたいと思います。佐世保でも、二十周年パーティー以来、クラス会がよく開かれています。

都合さえつければ参加するようにしましょう！

古川 英夫

不惑の年と思ひいふ

まだまだ余裕があると思つていても、この原稿の締め切りのように、すぐに時間が経つてしまふ。まさに、光陰矢のごとしである。

そういう自身も、今年四十歳になつてしまつた。所謂、「不惑」の年であるが、他の人たち、とりわけ私と一緒に昭和五十一年三月に卒業した第二十八回生の方々はどのような心持ちで四十歳と言う節目を迎えているのだろうか。いや、今「節目」と言う言葉を使つたが、本当に節目と思つているのか、それ自体が疑問だ。自分自身を振り返つても、精神的、或いは気持ちの上ではまだまだ三十代のつもりである。少なくとも、自分の父親が四十歳の時よりも、今の自分の方が数段若い（あるいは未熟か）と確信している。

そうは言つても、肉体的にはピークを過ぎて無理が利かなくなつていくことは、いくら自信過剰の性格でも自覚せざるを得ない。足腰が弱くなつた、疲れが取れない、酒が弱くなつた（これが一番痛い）等等、挙げればきりがながい。一方で、鍛え直せば体力はまた元に戻ると思つてゐるところが、愚かさの極みだ。

実は、四十歳になる前に、トライアスロンのハーフ版（水泳一・五km、自転車四十km、マラソン十km）に挑戦してみようと思ひつき、三十代終わり頃から密かに練習してきたのだが、水泳はどうにかクリア出来るようになったものの、自転車は、目標の半分程度、マラソンに至つては1kmがやっとという状況で、残念ながら、一生の内に達成できるか、いささか心もとなくなつてきた。

しかし、待てよ、二十八回生と言うことは、上には何と二十七歳も年上の先輩がいるのではないか。そして、彼らから見れば私はほんの洩垂れ小僧にしかすぎないのだ。「たかが四十歳になつたぐらゐで」との先輩方のお叱りの声が聞こえてきそうである。

「不惑」の筈が、ふらふらと迷つてばかり。せめて先輩方の頑張りに学ぶことにしよう。

芹沢 貢



『ふつけた事ばつかい言ひなよ...』

「北高」「東京」「二十年」という三つのキーワードは、我々二十九回卒の者にとつても、意味のある言葉である。

そう、我々は「北高」を卒業して、「東京」に出てきて、ちょうど「二十年」になる。その二十年たった同窓生達の、飲んだ席での会話が以下。ふうけた意見が、まあ多い。「今の政治家は、小物ばっかいばい。情けんなか」とは、佐世保の市会議員になれなかつた男の言葉。ただのサラリーマンが、大きい事をおつしやる。

「高校の時、あの男もオイがくらしたもんね」と言うのは、下級生を殴つて謹慎になり、生徒会長を半年で辞めた男の戯れ言。

「成田空港で物流の動きを見てると、世界の動きが見える」と大きく出たのは、某国立大学を半年で辞めた、某大手デパート系運送会社員の男の弁。

だれそれ構わず、「おまえも年収は一千万を超えたやろうね」という、自分が超えた事を徐々にバラす、某財閥系の超優良企業員の男。その男に対して「いや、うちのグループは、君のところでもつてるようなもんよ」と言うのは、同

じ財閥系の自動車会社のヤツ。グループ内で勝手に誉めあえ、と思つてしまふのは私だけか？。

「ああ、あの女や、なかなか良かったばい」とは、二十九回卒業生の中で、女に最もモテタ、現在スポーツクラブに勤めている男。

建設的な話はまずなく、回顧的な話は一時間もすれば終わり、スキあらば自慢をしようとする会話は、なんと疲れる事か、と思つていた。

だが、その後でよくよく聞くと、市議會議員になれなかつた男は離婚で大変な目にあい、某国立大学を辞めた男は、国立大学に合格する人数だけで勝負していたその頃の北高のカゲを引きずつていた。

元生徒会長も財閥系の男達も、色男もみんなそれぞれが、色々な事を滑りぬけて生きてきた。そんな男達に向けて、ほそぼそと私は言った。「あんまい、ふうけた事ばつかい言うなよ...。でもまあ、お互いががんばろうや...。オイ達も、人生の折り返し地点に立つたばい」

我々二十九回卒業生は、上京して二十年。定年退職までに、およそ二十年。

前田 隆敏

東京北星会二十周年に向けて

東京にいと「ふるさと言葉」を使う機会も少なく（一部に意地になって使い続けている方もいらっしゃると思いますが）、佐世保のことを日々の生活の中で思い出すことは少なくなってきました。特に三十路も後半を過ぎた私たちの年代では、高校時代まで生きた時間より、佐世保から離れた時間の方が長くなった。当然とも言えるそんな事実が、あらためて「故郷の距離」を思い知らされた気持ちになります。

九十八年夏は、それでも、台風にもなう土砂崩れの現場として「原分町」が出てきて、心を痛めながらも、インタビューを受ける方の佐世保弁を懐かしく思ったりもしていました。（失礼）さて、私たち北高三十回卒業生は昨年夏、お盆休みを利用して、「卒業二十周年」を祝う会を実施しました。三十回卒といえは昭和五十三年（一九七八年）卒業ですから少々気の早い「二十周年」なのですが、「思いついた時がやる時」ということなのでしょう。とにかくやってみました。会場は京町バス停前の「セントラルホテル」。この支配人が同期の土肥君であり無

理もききます。井上安治、松永宏之、両恩師の出席も頂き、何と約百三十人が出席しました。

会は、開会の挨拶（新良君・丸田君、恩師・同級生のうちの物故者に黙とうを捧げ、アトラクションと続きました。男子（！）は会場の右、女子は左に分かれていた開会当初のヨソヨソしい雰囲気、時間が経つにつれて次第にほぐれ、男女入り乱れての楽しい会になりました。「男はハゲかデブ、女はいい女かおばさん。きれいにふたつにわかれとんねえ」

誰が言ったかこの言葉は、全国共通、時代を超えて「二十年目の同窓会」を言い当てた名言かもしれません。その日の会の後が、「遠い日の火花」に終わったか、「失業園」になったかは、各人各様ありましようが、また、来年もしゅうね」と皆で誓い合ったことには変わりありません。東京からの参加者にとつても、ディーブな佐世保弁に触れられるいい機会でした。「絶対、今度こそ、また、しゅうつと（？）」。

以上、「失業園」できなかった、瀧野隆浩が報告しました。

瀧野 隆浩

青春は決して終わる事はない通り過ぎた季節

昨年、私達三十一回生の名幹事である橋口さんから北星会幹事の話をしていただき、僭越ながら引き受けさせていただいた。五月の総会に向けて年明け早々幹事会の門をくぐった。すると、どうだろう。勝手な思い込みで同年代の方達ばかりだと思っていたものの、集合されている方達の威風堂々たる貫禄ぶり。そこにはまさしく母校の先輩方がずらりと勢ぞろいされていた。私が母校に入学したのは昭和五十一年。その四年前から入学制度が変わり、合同選抜制度が導入された。北高生とは名ばかりの、いわばどんぐりの背くらべ型学生だった訳だ。そのどんぐりの前に輝かしい時代を偲ばせる先輩達のすばらしさといったら、もはや筆舌には尽くしがたい。しかし、そんな小心者の私を先輩方はしごく自然な包容力をもって接して下さった。懐かしい言葉、共通の話題：同じ土地に生まれ同じ学舎で過ごした者同士という安堵感からくる心情な郷愁とでも呼ぶべきか。ちなみに私達の同級生は少なくとも年に一回は必ず集まるようにしている。（それもこれも橋口さんの多大なる尽力の御陰だと深く感謝

している）現在、私達は三十七歳。男性は仕事で多忙を極め、女性の殆どは育児に追われているのが現状だ。昨年五月の総会に出席したのは僅か九名ではあったが、顔触れは毎年変わってきているようでも頼もしい。自身の問題にかまけ故郷や過ぎし日を思い出す暇などとれるものではないだろう。総会に顔を出す度に思う事がある。一つの時代を共有した友のすばらしい成長ぶりを認めた時の自分自身への問い掛け：はたして自分は彼らと比べ、どの程度人間的な成長を果たす事ができただろうか。さらには、未熟だった自分の若い時代への反省。ひいては今はなき時代への郷愁。センチメンタリストと人は笑うだろうか。いや、私は言いたい。かつて某作家は、青春とは通り過ぎればすんでしまう麻疹ではなく、健全な人間ほど自己の青春の中に見出した問題から逃れられないだろう、と述べている。そう、青春は過ぎた時代なのではない。永遠に続くのだ。今度は総会でどんな懐かしい友に逢えるだろうか。今からとても楽しみである。

桑島 千秋・足立 慶子

気がつくとき三十八歳

先日、おおよそ五年ぶりに母校を訪ねました。佐世保市役所を横目にいつも登校していた様にゆつくりと坂を登り八幡様にお久し振りですと挨拶し、しばらくするとグラウンドが目に入ってきました。「なつかしかねえ」とおもわず口走り校門に辿り着きました。北高を卒業して今年で十八年、気がつくとき三十八歳。卒業時の倍の年齢になっていました。グラウンドに降りる石の階段に腰かけて當時を振り返ってみましょう。色々な人の顔が浮かんで来ます。学年主任である英語の吉田先生、早朝補習で遅刻すると出席簿の角で叩かれました。今の世の中だったら暴力教師などと罵られるでしょうが、とても温かく且つ厳しく我々に指導してくださいました。数学担当の柴山先生(通称「柴じい」)。いつも穏やかで優しい先生でしたが毎日飛び出すタジャレには閉口しました。個性的な先生が多く、毎日楽しい授業でした。

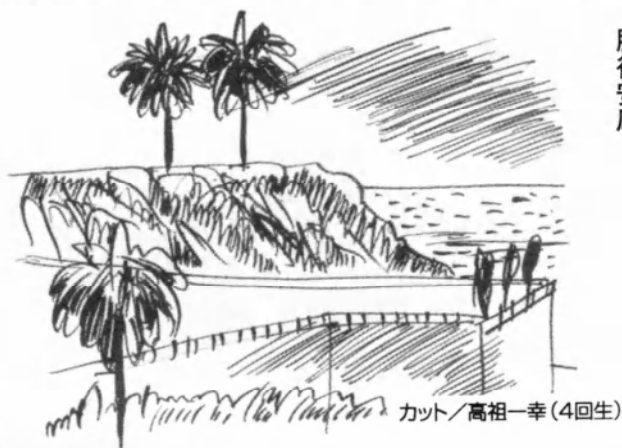
今度は校舎を抜けて、中庭から各倶楽部の部室の方へ行ってみましょう。またまた懐かしい想いにかられます。当時、私はカメラ部に所属していました。「あいしんスポ

ーツ」の長男・金子君、西肥自動車御令嬢・田中千香子さん、小倉君に朝重さん。みんなとても仲がよく楽しい毎日でした。この文章を読んで郷愁にかられた佐世保を離れた卒業生の皆さん、たまには母校(佐世保へ)帰ってこんね。忙しい毎日から解放されてふっと我に返る事ができますよ。

それでは、校歌でも口ずさみながら帰るとしましょう。

「紫匂う烏帽子岳、明けゆく明日空澄みて…」卒業生の皆さん、どうか健康にはくれぐれも気をつけて楽しい人生をおくりましょう。

肥後安広



カット/高祖一幸(4回生)

三十三回の皆様お元気ですか？

ふと振り返ると時の流れは何とも早いもので私達が北高を卒業して十七年の月日が流れてしまいました。年に何度もない事です、同じ街で同じ時を過ごした友が集まり、変わらない佐世保弁で話すのを聞いていると、高校生のままのみんながいる様な、何だか妙にほっとする様な気がするのには私だけでしょうか。北星会に出席するようになってからは同期だけでなく先輩方や後輩達との楽しいひと時も持てるようになりました。(だから東京近辺在住の方は全員幹事になりましょう！)

誰もが様々な場所、人間関係の中で自分の道を歩んでいる事と思いますが、時にはちよつと立ち止まり佐世保に想いを馳せるのでもいい事ではないでしょうか。あの頃の仲間と会って、忘れかけた自分を思い出してみるのもいいものではないでしょうか。

浦田千尋

☆☆☆☆
野球部の先輩の丸田さんに誘われて、幹事会に参加するようになりました。二年に一度の総会を成功させるために、先輩達が早い時期



平成8年、六本木バレンタインで浦田さんのライブで応援の同窓生と

から定期的に幹事会を開き準備されていることに驚きました。それに東京で大勢の人と、佐世保弁で話せるとは思っていませんでした。だから会議が佐世保弁で行われていることに嬉しくなりました。

先輩たちが作ってくれたこのすばらしい会を、存続させ盛り上げていくには、若い人たちの数多くの参加が必要になります。三十三回生を含め、それ以降の後輩たちの積極的な参加を期待します。

太田 誠

三十五期生 電網整備計画!!

三十五回の人間の東京北星会での活動内容だが、なんかやってたっけ?というのが現状である。何か書く材料がないかと、久しぶりに卒業アルバムを開いてもみたが、郷愁は湧くもののこれといって思いつかない。

ここでふと浮かんだのが、インターネットを使った同期の連絡網は作れないか?ということである。卒業して十五年近く経ち、以来地元を遠く離れた東京に住んでいるため自身の高校時代のつながりはないに等しい。同窓会名簿を調べたところ同期の仲間の大半は九州にいるようだけれども、私同様、全国各地に散らばって行った仲間たちも結構いることもわかった。地元にいれば同窓会を開くのも容易だし、昔の仲間たちの情報も伝わりやすいだろう。しかし、連絡の届かない人間は少なくないだろうし、ほうっておけば、年々連絡の困難さは増すことになるだろうから、やるなら今のうちという事情も存在する。具体的には大きく二つの方法がある。

WWで同期のホームページ(H P)を立ち上げ、情報の発信基地とすることである。問題点としては、MLの場合登録者が、百名程度いないと、話題がすぐになくなってしまふ点。WWの場合は掲示板的な要素があるので、ニュースソースの提供がないと興味を引くようなものが作れない事、一方的な情報提供となりやすいことが挙げられる。どちらの場合にも地元のニュース提供者との連携が不可欠と思われる。利点としては、どちらの場合でも百名以上の規模に個人で管理出来る事であり、すぐにでも始められることである。最大の難点は、同期全員が電子メールのアドレスを持っているわけではないことだが、基幹となり得る連絡網を作るためには最良ではないかと思う。賛同してくれる人がなければ話しにならないけど、この文書が人の目に触れる頃には、私のHPは完成しているの、三十五回HPの仮住まいを作っておきます。後は参加者が増えてくれる事を期待しつつ筆を置きます。

e-mail: sieg@ba2.socnet.ne.jp
竹内 藤雄

高校時代の思い出『幻の甲子園』

高校時代の思い出といえば、僕が二年生(昭和六十年)の時に、夏の甲子園大会の県予選で、我が北高が決勝戦まで進出したことがあった。準決勝戦と決勝戦の応援に大橋球場まで貸し切りバスに乗って行った記憶がある。

あの時は確か、三回戦で佐工とあたり、一対〇の接戦を制して勢いに乗ったのだった。佐工戦は土曜日の午後だったと思うが、北高の勝利を知らせる校内放送が流れた時は、学校に残っていた生徒みんなが沸き上がった。

準決勝戦の長商戦も接戦で、五対四で迎えた最終回は、一打同点のピンチだった。長商最後のバッターが大きなセンターフライを打ち上げた瞬間は、肝を冷やしてしまった。心の中で「ナムサン!」と叫んだのをよく憶えている。

決勝戦は佐実だったが、佐実のエースが準決勝戦で指に怪我をしてしまい、北高との決勝戦には投げられない状態だった。「勝利の女神は北高に味方している」と確信した僕は、決勝戦を通り越して早くも甲子園に思いを馳せていたのだが、甲子園への道程は、そう甘くはなかったのだ。

ゲームの序盤は、接戦だったが、四回くらいから佐実の重量打線を押さえ切れず、終わってみれば大量得点差で大敗した。

試合の終盤は、かなりの得点差が開いてしまったが、北高生の応援は接戦の序盤と同様の大きな声援で、普段の応援練習からは考えられないような一体感だった。そして、グラウンドから出てきた選手たちの目からは、大粒の涙もこぼれていた。甲子園の夢は叶わなかったが、僕の北高時代の忘れ難い思い出となった。選手たちだけでなく、北高生みんなの夏が、一つ終わったのだった。

実は、この原稿を書いている今現在、夏の甲子園大会が終わったばかりである。毎年毎年、県予選の時期になると、やはり我が母校の勝ち負けが気になる。今年は甲子園に行けるかな、やっぱり無理かなど。いつかしらは、甲子園に応援に行ってみたいものである。そしてあわよくば校歌を歌いたい。「我が北高に光りあれ」と。

会満 篤

連絡をお待ちしております

我々四十一回生は、卒業後約十年が経ちますが、活動らしい活動は一度もありません。

今年は、節目の年でもあり、そろそろ活動を始めたいと思います。しかし、現在は、横のつながりもほとんどなく、連絡先もわからない感じです。四十一回生の方、または諸先輩方、後輩の方で四十一回生の消息をご存知の方がいらっしやいましたら、ご一報頂ければ幸いです。

●坂本 和己
四十一回生(平成元年卒業)

●仁位 尚彦



K. Hatano カット/畑農照雄(5回生)

三浦野教会より港をのぞく

校章を 考証する

母校の校章の意味することをご記憶でしょうか？

「北」という文字を三つ合わせ、進歩 向上 反省を表わしています。

学び舎を離れて幾星霜、

翠の黒髪が白くなろうと薄くなろうと、

二八の時を過ぎた若き血潮に

燃えたぎったあの懐かしい時代、

私たちは忘れることができません。

校章の意味することをもう一度想いおこし、

明日へ向かつて大きく

「進歩 向上 反省」して

みようではありませんか！

この校章のデザインは、

母校開校当時の初代美術担当教諭の

松尾一枝先生によるものである。

本誌デザインをはじめ

イラスト・カットを戴いた方々は全て

この松尾先生の

薫陶を受けた教え子たちでもある。

今は亡き先生を偲んで

冒頭に先生の絵を転載させて戴いた。

●松尾一枝先生略歴

昭和二十四年

長崎県立佐世保北高等学校教諭

校章をデザイン

クラブ活動・美術部と演劇部の顧問

平成九年十二月八十六歳にて天寿を尽された。



会員の皆さんの親睦を深めるために、総会だけでなくゴルフコンペを開催しようという話
が、幹事の努力により東京北星会も軌道に乗
ってきた昭和五十九年に持ち上がり第一回の
ゴルフコンペを七月二十九日に「富士平原
C・C」で行い、十一名の参加がありました。
それ以来ゴルフコンペを年二回、春と秋に開
催することに決定し、本年には第三十回目を
迎えます。当時は、東京から貸し切りバスに
乗り早朝から飲んだり、談笑しながら楽しい
ゴルフをした思い出があります。しかし平日
のゴルフコンペは、皆さん働き盛りで休暇を
取るのも大変な年代でもあり、五組を予定し
ていても三組しか集まらないような時もあり
ましたが、年二回の開催は守られています。
昨年迄事務局をしていた久保君（十九回生）
の努力により、第二十五回（平成八年春）の
「浦和G・C」では最高の五十三名が参加しま

した。

事務局をしていた浜副君（十三回生）が、他
のゴルフコンペでホールインワンを達成し、
その記念コンペを開催したこともあります。
東京北星会のコンペでは、鴨打さん（三回生）
が唯一、第十九回の「高坂C・C」で達成し
ています。この時も記念コンペを盛大に開催
しました。

十五年間ゴルフコンペを行うといろいろと楽
しいことやハプニングがありました。女性の
参加も多く、第二十八回（平成九年・秋）の
「浦和G・C」ではウーマンパワーが大爆発！
猪須さん（十回生）がグロスで八十四のスコ
アを出し、B・Gと優勝を一人占めにしてし
まりました。

このコンペに登録している会員は百六十名い
ます。コンペでの皆さんのスコアは、八十か
ら百六十くらいまで叩いています。優勝者は
毎回変わっているのですが、B・BとB・M
はYUさんとTOさんの指定席となっており、
毎回二人で競っています。シングルは勿論、
初心者でも安心して参加できます。本年は東
京北星会二十周年の年でもあり、ゴルフコン
ペも、この記念の年の行事として「記念大会」
を開催することになっています。

成績は新ベリア方式で行いますので、誰にで
も優勝するチャンスがあります。ふるって参
加して下さい。

（生山康夫・四回生）

【事務局】丸田洋介（三十回生）

東京北星会ゴルフコンペデータ表

回数	日時	場所	組数	優勝者	回数	日時	場所	組数	優勝者
第1回	S59. 7. 28	富士平原G C	3	立石憲治(19)	第15回	H3. 5. 16	高坂C C	5	土岐邦三(7)
第2回	S59. 10. 20	富士平原G C	5	田中 徹(7)	第16回	H3. 11. 14	高坂C C	5	松田善寿(6)
第3回	S60. 5. 16	中津川C C	6	田中 徹(7)	第17回	H4. 5. 21	高坂C C	5	門口達美(8)
第4回	S60. 10. 17	藤岡G C	5	門口達美(8)	第18回	H4. 11. 5	高坂C C	5	門口布瀬(8)
第5回	S61. 6. 5	西八王子C C	4	生山康夫(4)	第19回	H5. 5. 20	高坂C C	5	門口達美(8)
※1	S61. 9. 14	東名厚木C C	4	高島 栄(7)	※2	H5. 9. 2	浦和G C	6	データ無
第6回	S61. 10. 30	西八王子C C	4	データ無	第20回	H5. 11. 11	浦和G C	5	塩崎拓爾(3)
第7回	S62. 12. 3	中津川C C	4	生山康夫(4)	第21回	H6. 6. 2	浦和G C	7	大石典弘(8)
第8回	S63. 6. 23	東名厚木C C	5	田辺克子(5)	第22回	H6. 11. 10	浦和G C	10	村上赫子(11)
第9回	S63. 9. 8	ノザンC C	5	野元武男(6)	第23回	H7. 4. 13	浦和G C	10	丸田洋介(30)
第10回	S63. 11. 17	朝霧ジャンボリー	5	有田妙子(5)	第24回	H7. 11. 9	浦和G C	15	菅村奎司(8)
第11回	H1. 5. 18	高坂C C	5	近藤一明(14)	第25回	H8. 6. 6	浦和G C	14	畑津禮三(3)
第12回	H1. 10. 26	高坂C C	5	近藤一明(15)	第26回	H8. 10. 17	浦和G C	8	田中 穰(8)
第13回	H2. 4. 19	高坂C C	5	生山康夫(4)	第27回	H9. 5. 22	浦和G C	10	大胡東行(12)
第14回	H2. 10. 4	高坂C C	5	堀 和義(6)	第28回	H9. 10. 2	浦和G C	8	猪須博子(10)

※1：浜副洋三氏(13)ホールインワン記念コンペ ※2：鴨打ヨシ氏(3)ホールインワン記念コンペ

東京北星会 20年の歩み

――「沿革」――

佐世保北高等学校（沿革）

社会の出来事 ◆流行語 ♪流行歌・ヒットソング

昭和24年 (1946)		長崎県立佐世保北高等学校設置認可（創立） 栄岩弘本校校長に補せられる。帽章作成（松尾一校先生）	1ドル360円の為替レート設定。湯川秀樹ノーベル賞受賞 ◆ドジャース、阪神大学、三洋、ノルマ「青い山脈」
昭和25年 (1947)	生徒会発足、初代会長大島幹敏生徒総選挙により選出 校歌制定	朝鮮動乱勃発 ◆特需景気、レッドパージ。貧乏人は麦を食べろ「東京キッド」	◆東海村に「原子の灯」。諫早大水害。ソ連で人工衛星打上げ成功 ◆一億総白痴化、永すぎた春♪「有楽町で逢いましょう」
昭和32年 (1957)	図書館（木造平家建）新築	◆万円の札発行。東京タワー完成。フラフラフ、長嶋デビユー ◆ロカビリー、月光仮面、ながら族♪「星は何でも知っている」	◆安部龍平。三池闘争。カラテテレビ放送開始。即席ラーメン ◆所得倍増、私はウソは申しません♪「誰よりも君を愛す」
昭和33年 (1958)	硬式庭球コート着工	◆ケネディ大統領暗殺される。首都高速道路工事。黒部ダム ◆巨人大鵬翔、カギツチ、シェー♪「こんにちは赤ちゃん」	◆東京オリンピック開催。東海道新幹線開通。新潟大地震 ◆ウルトラC、おれについてい♪「幸せなら手をたたこう」
昭和35年 (1960)	体育館新築	◆エンタープライズ佐世保入港。三億円強奪事件。東大紛争 ◆イザナギ景気、ハレンチ♪「フルーライトヨバヤ」	◆冬期五輪札幌大会開催。沖縄本土復帰。浅間山荘事件 ◆恥ずかしながら、のんびりい♪「瀬戸の花嫁」
昭和36年 (1961)	全日制生徒定員一、五四五名となる。給食調理室新築 本館に9教室及び一部地階を増築ほか教室の増改築	◆新東京国際空港開港。植村直己北極点到達。ディスコブーム ◆窓際族。不確実性の時代、地方の時代♪「UFO」	◆原子力船「むつ」改修作業開始（佐世保重工業） ◆モスクワ五輪開催日本不参加。イラン・イラク戦争はじまる。 ◆現金自動支払機オンライン化。ルービック・キューブ
昭和38年 (1963)	渡廊下（雨天体操場）完成	◆それなりに、カラスの勝手、ブリッヂ ♪「ダンシング・オールナイト」	◆日航機逆噴射墜落。ホテルニュージャパン火災。 ◆COフレジャー発売。ワープロ（富士通）5万円。 ◆上越新幹線開通。ガンダムファイバー
昭和39年 (1964)	給食調理室屋上に定時制図書館新築	◆全日制生徒定員一、七七八名となる 佐世保市より運動場敷地（下のグラウンド）四、七五四㎡買上げ	◆ネアカとネクラ、ルンルン、気くばり ♪「北酒場」「夢芝居」
昭和43年 (1968)	創立30周年記念式典挙行	佐世保市内の全日制普通科を置く3高等学校（南・北・西高） の47年度以降の入学選抜は総合選抜制となる	◆グリコ・森永事件。電話ケーブル火災、通信網マヒ。 ◆植村直己、消息絶つ。ロサンゼルス五輪開催。 ◆宇宙で自由遊泳。新札発行。
昭和47年 (1972)	校舎改築に伴う解体工事 定時制課程廃止となる	校舎改築1期工事（普通教室の半分）着工	◆親ガモと子ガモの引越。焼酎ブーム ◆ピーターパン症候群、イッキ、くれない族、 ♪「もしも明日が…」「桃色吐息」
昭和53年 (1978)	校舎改築2期工事（普通教室の半分）着工	校舎改築工事のため八幡町新校舎に移転 新校舎落成記念式典挙行 クラブ室建設工事着工	
昭和55年 (1980)	第1回総会「東京北星会」発足 11月15日 V・V・V（六本木） 出席者数 296名		
昭和57年 (1982)	第2回総会 11月27日 金王まつり（渋谷・東邦生命ビル） 出席者数 350名		
昭和59年 (1984)	第3回総会 6月22日 雅叙園観光ホテル（目黒） 出席者数 309名 ★「名簿」発行 ●「ゴルフコンペ初めて開催」――9月15日	体育館、生徒更衣室兼体育職員室、第1倉庫解体工事	

昭和61年 (1986)	第4回総会 5月31日 雅叙園観光ホテル(目黒) 出席者数 284名 <i>市堂棧橋</i>	体育館建設工事竣工	東京サミット開催。三原山噴火。東北自動車道全線開通。 男女雇用機会均等法施行。土井たか子社会党スタート。 狂乱地獄。ソ連チエルノブイリ原子力発電所事故 ◆究極、新人類、知的水準、おまじなクラブ、ハイテク水着 ♪「CHA・CHA・CHA」雪国「時の流れに身をまかせ」 リクルート疑惑。牛肉・オレンジ自由化。 さようなら青函連絡船(トンネル開通。瀬戸大橋開通。 ソウルオリンピック開催。坂本龍一がアカデミー音楽賞 ◆今宵はさよなら... 心因反応、ドーピング ♪「パラダイス銀河」
昭和63年 (1988)	第5回総会 5月31日 赤坂東急ホテル 出席者数 350名 ★名簿発行	中国北京へ修学旅行(3泊4日 総員454名)	昭和天皇崩御。消費税3%実施。天安門事件。ベルリン壁崩壊 ◆イケイケ、オパタリアン、ファジー♪「Diamonds」とんぼ」 東西ドイツ統一。南ア・マンデラ氏釈放。対イラク経済制裁。 天皇即位の礼。礼宮さま紀子さまご結婚。大阪で「花の万博」。 日本人初の宇宙旅行 ◆あげまん、オタッキー、○○じゃありませんか、トリカブト ♪「おどるボンボリン」「浪漫飛行」今すぐKiss Me」
平成22年 (1990)	第6回総会 5月26日 雅叙園観光ホテル(目黒) 出席者数 306名	ハンドボールコート兼生徒集会場竣工(梅田)	島原普賢岳火砕流。湾岸戦争。バブル経済崩壊。ソ連政変 ◆PKO、ダイジョウブ、かっぴの「I SAY YES」愛は勝て」 佐川急便疑惑。スペースシャトルで毛利さん宇宙へ。 バルセロナ五輪で日本勢メダル22個。地球サミット開催。 PKO協力法成立、カンボジアへ派遣。エイズ対策本部 ◆HIV、きんさん・ぎんさん、カード破産、院内感染 ♪「君がいるだけで」「BLOWIN」「ガラガラヘビがやってくる」
平成3年 (1991)	第7回総会 5月23日 東海大学校友会館(霞ヶ関ビル) 出席者数 308名	普通教室棟床改修工事竣工 梅田校舎外壁改修工事竣工	各地で記録的猛暑、水不足が深刻化。コメ不足で価格高騰。 向井千秋さんロシアで宇宙より帰還。いじめ自殺相つづ 松本「サリン」で7人が死亡。大江健三郎氏にノーベル文学賞 ◆イチロー、ゴースト宣言、ヤンキー・ハット、ペンギン ♪「ダンスの神様」「OH MY LITTLE GIRL」「CROSS ROAD」
平成6年 (1994)	第8回総会 5月28日 東京プリンスホテル(芝大門) 出席者数 409名 ★名簿発行	図書館・パソコン教室冷暖房工事竣工 梅田校舎体育館床改修工事竣工 保健室・職員室冷暖房工事竣工	阪神・淡路大地震。地下鉄サリン事件・オウム真理教 ◆NOMO、ガンバロウ神戸、変わらなきゃ♪「スキヤットミ」
平成7年 (1995)		中国北京へ修学旅行(4泊5日)	若田光一さん「エンデバー」で宇宙へ。北海道トンネル事故。 アトラクタ五輪開催。住専問題。もんじゅ事故。 ベルー日本大使公邸人質事件。たまごっち。プリクラが大流行 ◆チヨビダ、アムラー、メークドラマ、自分で自分をほめたい ♪「名もなき詩」「PARTURES」「Don't wanna cry」「ごんげ」
平成8年 (1996)	第9回総会 8月5日 アルカディア市ヶ谷(私学会館) 出席者数 380名	新武道館落成式(2月) 生徒から名称募集して「北斗館」と命名	
平成10年 (1998)	第10回総会 6月6日 ヴェルファール(六本木) ★「東京北星会20周年記念誌」発行	創立50周年記念式典・行事 ●北高・南高合同芸術展(1〜2月島瀬美術センター) ●記念講演 早稲田大学教授瀬野精一郎氏(2回卒)11月 ●記念モノメント「鵬(おとこ)」除幕式12月27日 制作者 メキシコ国立美術学校教師太田清人氏(19回卒) ●記念式典 同祝賀会10月17日予定	長野冬期オリンピック開催。 全世界と結ぶ同時デジタル開会式が話題をよぶ。引続き日本で初めての冬期オリンピックも開催

福岡北星会

東京北星会二十周年、おめでとう
ございます。東京という広い地域
での同窓会活動には地方と違って
ご苦労があることでしょうが、同
窓生の皆様の強い支持があつてこ
その二十周年と想います。

心から敬意を表します。

東京及びその周辺には多数の同窓
生が在住されておられましようし、
これから当分の間は増加の道を
たどることでしょうし益々の発展
を期待致します。

さて、福岡北星会も今年二十周年
を迎えます。同じ年に二十周年を
迎えるわけですが、総会には山崎
岩永元学校長をはじめ各地区の北
星会代表にご臨席いただくことに
しております。

当北星会は、初代成富会長の大変
な熱意とご努力により発足し、
着々と地歩をかため、二代最所会
長の情熱と積極性のおかげで安定
期にはいりました。これからも当
北星会の発展に全会員の力を結集
してあたりたいと思っております。
また、母校佐世保北高校は記念す
べき五十周年を迎えます。共に母
校佐世保北高の創立五十周年を祝
おうではありませんか。

福岡北星会々々長

井手義浩（七回生）

長崎北星会

東京北星会の皆さん、お元気です
か。この度の東京北星会二十周年
並びに二十周年記念誌の発刊、誠
におめでとうございます。

さて、長崎北星会の現況ですが、

昭和五十二年に発足し、東京北星
会同様二十年になります。現在の
会員数は長崎市を中心とし約千名
位で、三、四年に一回、総会懇親
会を開催しております。顧問に第
二代校長であられた速見雄吉先生
に就任いただいております。

先生はご自身で「星雲学園」を創
設され、今も大変元気に活躍され
ております。同じ県内でも県北（佐
世保市）と県南（長崎市）では風
土、氣質、経済も相当に違い、私
も随分と苦労しました。しかしそ
んな時、有り難いもので物心両面
支えてくれたのが同級生、同窓生
の方々です。また速見先生や他の
先生、特に経済界の先輩、後輩に
同郷の誼で色々と援助をいただき、
つくづく有り難いと感じたもの
です。今でも同窓生とは定期的に
会い情報交換を行い今日を迎えて
おります。東京北星会の皆さん、
長崎にも仲間がおりますので気軽
にお遊びに出かけてきてください。
長崎北星会々々長

川添一巳（三回生）

北 星 会 支 部 だ よ り

佐賀北星会

東京北星会二十周年おめでとうご
ざいます。益々のご発展を祈念致
します。私共佐賀北星会は、昨年
九月二十日に第九回総会を開催し
ました。佐賀県及び近郊に居住の
方は全て会員とみなし、出来る限
り多くの方にご案内を致しており
ます。その結果三十名程の方にお
集まり頂くことが出来ました。

もう少し出席者が増えたらと思っ
ております。翌日は三、四組のゴ
ルフとなりました。

佐賀の地を紹介しますと、数年前
には都会では「パブルの嵐」が吹
いたそうですが、佐賀ではそのよ
うな「嵐」はそよともせず、平穏
な中で時間が過ぎております。美
しい自然と美味しい海の幸、山の
幸に恵まれております。昨年十月
一日五日、二十四日まで、熱気球
世界選手権が開催されました。平
野が広く、安定した気候があるか
らだそうです。田圃の上を、色と
りどりのいろんな形をした熱気球
（高さ三十メートルはあります）が
ゴーゴーと音を出しながら飛んで
いくのは壮観です。また今年七月
には、佐賀空港が開港します。ぜ
ひ佐賀にも観光に来てください。
佐賀北星会々々長

牧野邦司郎（十一回生）

熊本北星会

貴会発足二十周年、お慶び申し上
げます。

私達の熊本同窓会は、昭和五十三
年二月既存の佐中熊本同窓会より
南、北高同窓生と合同しようとの
呼びかけで、三校合同熊本同窓会
が誕生したのです。他地区では見
掛けのない組織で現在に至っており
ます。

発足以来、毎年二月に総会を欠か
さず開催し、本年は第三十四回目
を迎えました。

当初は在熊本同窓生の消息も定か
ではなく、手探して探すという状
況でしたが、年々増加し、お陰で
今年二月現在で会員総数三百二十
三名、内北星会員が百五十三名と
なりました。

何時も総会終了後懇親会に入る前
に出身校別に壇上で校歌の斉唱を
行いますが、学窓は異なっても同
郷という共通項から至極和やかに
楽しい一刻の場となっております。
最近卓話も北星会員が独占する
張り切りようです。

当会は前述したように特異組織の
ためか、本部登録がなく、今回「熊
本北星会」の創設に至った次第で
す。今後とも宜しく願います。
熊本北星会々々長

片山拓郎（二回生）



あれから二十五年がたった今年の春、夢にまでみていた母校への転勤が実現しました。新任式で後輩である生徒たちの前に立った時は、身も心も震えが止まりませんでした。

在学中の私は、毎日毎日「白球」を追いつける野球少年。三年生の最後の試合となった夏の予選は延長十回裏諫早高校にサヨナラ負け！悔しくて悔しくて涙が止まりませんでした。

その夏、これからの進路を考えました。普段あまり勉強をしていなかったため考えがまとまらず補習もサボり考えました。そして、その夏の終わりに考えがまとまりました。「高校教師になろう！そして母校を甲子園に出場させよう」「その為にはまず大学に行つて教員免許を取ろう」「まずは勉強をしよう！」

運よくストレートで希望の大学に進学することができました。ここまでは筋書き通り、しかしこの後が大きな回り

道をしてしまいました。教員試験に失敗すること二度。三回目の挑戦でやっと合格したかと思えば国体強化のあおりを受けて中学校の先生としてのスタート。黒島へ転勤。希望が叶い高校へ転出したかと思えばまたまた離島！

それも長崎県唯一の「村」大島村。三年勤務後、これまた長崎県のチベツトと言われる「松浦」（松浦にお住まいの方すみません）なかなか母校は遠い！

しかしこの松浦高校で初めて高校野球の監督になりました。初めての公式戦の相手が何と「佐世保北」こりゃ負けられんとかんばり五回コールドで初勝利！それから五年たった今年、突然に母校勤務を命じられたわけです。二十五年前の夏いろいろと考えた末に描いた夢が今ひとつ叶いました。次の夢「監督」には平成九年八月より就任。現在部員二十二名と汗を流しているところ

です。今考えると、よくもまあ長いこと「夢」を見続けてきたものだと思います。「夢」はみるだけではただの「ゆめ」ではない。「夢」は自分の努力と強く思い続けることで自分の手にして初めて「夢」といえると思います。

「夢」の続きをこれから野球部OB、父母の会等と共に手にしていきたいと思っています。

佐世保北高校野球部監督

公文 健一（二十五回生）

★★★★★



長崎でこいランド

「東京デイズニーランド」が世間の脚光を浴び華々しく開園したのと同じくして一九九〇年五月に、心身に障害がある人となん人々が共に安心して遊び、楽しめる施設として、諫早市の郊外多良岳の麓麓園になつていた約五千坪のみかん畑の跡地に「長崎でこいランド」をオープンしました。

心身に障害を持った人達は、どうしても家に閉じこもりがちです。全国のお仲間さん達が気軽に出来ることをを念願し、デイズニー（出ずにー）を肯定語の（出てこい）に呼び換えて命名しました。

私の長男「太郎」は、昭和四十五年四月に知的・言語・自立歩行困難の三つの障害を担って誕生しました。太郎と

共にいろんな段差と障害の壁に直面し、太郎、娘、夫婦の一家四人で涙する経験を幾度となく味わう中で何時の日にか、健康な人と心身に障害を持つ人が分け隔てなく交流できる、バリアフリーの福祉村を建設することを生涯の夢として抱き続けてまいりました。

その夢が実現したのは東京北星会をはじめ先輩、同期生、後輩、親類、知人、友人、東京・佐世保・諫早そして全国の大学生と多くの方々の絶大な支援のおかげです。

施設はゆうに百人は泊まれる大きな二階建てログハウスで「リフト付」露天風呂、トイレ、居室から全てを、段差のないフラットなバリアフリーに建設しています。

利用は全て無料です。行政からの援助は一切いただいていません。利用された方が楽しかったと思われた分だけの自主的カンパで維持運営されています。また、この建設の主旨に賛同頂いた方々からの毎月五百円（年間六千円）の支援金に支えられ八年が経ちました。現地では、スタッフの上野館長がご来園をお待ちしています。

ご帰郷の折には時間を作つていただき、是非一度ご見学にいらして下さい。皆様のおこしを楽しみにしています。

浜副洋三（十三回生）

佐北も今年創立五十周年。もう何年も佐世保に帰っていないという人も多いことでしょう。

一躍佐世保の名を高めたハリステンボスだけでなく、ここ数年で佐世保は大きく変わりました。

そして二十一世紀に向けてさらに変わろうとしています。ほんのわずかではあります。が、今の佐世保をお伝えし、ぜひ機会を作って、ご自身の目で現在の佐世保をお確かめください。

SASEBO★NOW

★味覚 NOW★



【佐世保地ビール】

規制緩和によって全国に続々と誕生した地ビール。その数はなんと180を超えます。

佐世保地ビールは、それらの中でも最西端の地で最先端の技術で造られる風味の豊かさが自慢。九十九島の黄金色に輝く夕焼けを見ながら黄金色のジョッキを傾ける時、まさに至福の時間が包み込んでくれます。

★イベント★

【海の夏祭り】



西海パール・シー・リゾートでの花火大会、伝統行事の西海火まつり、勇壮な西海太鼓まつりと、佐世保の夏は祭り一色。また、佐世保港の花火大会も風物誌の一つとなっています。

【アメリカン・フェスティバル】



8月最初の週末に米軍基地内のニミッツパークを中心に行われる、アメリカ気分いっぱいのフェスティバル。2日間のイベントに毎年約20万人の人が訪れます。

【JAZZフェスティバル】



戦後街中にあふれていたジャズを見直そうと10月に千景公園で開催される屋外ライブ。国内外から訪れる一流ミュージシャンの演奏とステージ真裏に沈む夕日の美しさは絶品 /

【お・く・ん・ち】



何とんでも佐世保最大のイベント。11月。亀山八幡宮の秋まつりの神興や奉納踊りに併せて、市民・会社・官公庁・自衛隊などによる仮装行列等、市民総参加のまつりです。

カット／山口英昭(6回生)

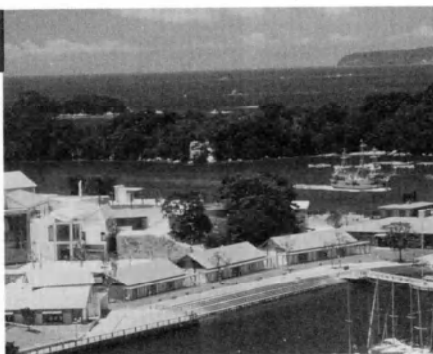
協力 ● 佐世保市役所
佐世保市東京事務所
佐世保観光協会

SASEBO★NOW

★観光・レジャー★

〔西海パール・シー・リゾート〕

自然と文化の共生をテーマに、鹿子前に誕生した新しいかたちのナチュラル・リゾート。ドームシアターや水族館を始めとした様々な施設と、海辺の公園として整備された周辺で贅沢な一日を満喫することができます。



〔烏帽子岳高原リゾート〕

本格的なスロープを持つ、オールシーズン滑降可能な人工芝のスキー場を中心に、ゴーカート、ミニゴルフ、レーザーショット、ローラースケート場などを整備した、ファミリーで楽しめる高原のスポーツリゾートです。



〔展 海 望〕

俵ヶ原半島のほぼ中央に位置し、眼下には九十九島がダイナミックに展開します。

9月下旬から10月上旬まで15万本のコスモスが咲き乱れます。また春には菜の花で一面黄色に染まり、海の青と対比的な美しさです。



★味覚 NOW★



〔鯛しゃぶ〕

獲れたての新鮮な鯛を贅沢に使った佐世保の新しい名物料理です。通年味わえます。

フグ刺しのように薄く切って盛り付けられた鯛の切り身を、三川内焼の専用レンゲで昆布のダシ汁にさっとくぐらせて、ポン酢で食べます。コリコリ感を少し残しながらもほどよく柔らかくなった熱々の鯛は絶妙の味です。

東京北星会・各回幹事一覧表

卒回	卒業年	氏 名	連 絡 先	卒回	卒業年	氏 名	連 絡 先
1回	昭和24	不 在		22回	昭和45	宮田 学	
2回	昭和25	山口 景昭		23回	昭和46	中西 新一	
		増田 弘		24回	昭和47	近藤 恵一	
3回	昭和26	鴨打 ヨシ				今鹿倉 誠	
4回	昭和27	生山 康夫		25回	昭和48	小川 和彦	
		高祖 一幸		26回	昭和49	不	
		畑津 政斗		27回	昭和50	古川 英夫	
5回	昭和28	杠 一義		28回	昭和51	楠本 克己	
		北島 晴美		29回	昭和52	中里 博人	
6回	昭和29	真子俊太河		30回	昭和53	瀧野 隆弘	
7回	昭和30	土岐 邦三				丸田 洋介	
8回	昭和31	門口 達美		31回	昭和54	足立 慶子	
		中里 徹哉				桑島 千秋	
		宮崎 彰				橋口勇三郎	
9回	昭和32	相原 喜龍		32回	昭和55	肥後 安広	
		小堀 一夫		33回	昭和56	浦田 千尋	
10回	昭和33	猪須 博子				太田 誠	
		土山 清		34回	昭和57	不	
		山口 進		35回	昭和58	竹内 藤雄	
11回	昭和34	山口 恭道				水田 聡子	
12回	昭和35	加藤 陽三		36回	昭和59	不	
		川崎 敏明		37回	昭和60	不	
13回	昭和36	岩永 真人	38回	昭和61	不		
		浜副 洋三	39回	昭和62	合満 篤		
		古川 忠夫	40回	昭和63	不		
14回	昭和37	山中 邦彦	41回	平成 1	坂本 和巳		
15回	昭和38	江頭 忠正			仁位 尚彦		
		瀬戸口照弘	42回	平成 2	不		
		中谷 照子	43回	平成 3	不		
16回	昭和39	草野 章次	44回	平成 4	不		
17回	昭和40	緒方 隆之	45回	平成 5	山口 孝一		
18回	昭和41	山口 祐二	46回	平成 6	不		
19回	昭和42	井手 善敏	47回	平成 7	不		
		久保 誠	48回	平成 8	不		
20回	昭和43	石松 千明	49回	平成 9	秋月 樹一郎		
21回	昭和44	吉松 大志	50回	平成10	不		
22回	昭和45	桐生 尚子	事 務 局 : 久 保 誠 (C				

※不在回の卒業生をご存知の方は事務局迄ご一報下さい。



絵／馬場忍先生

東京北星会創立20周年記念誌
制作スタッフ

●編集委員長

土岐邦三(7回生)

●編集委員

山口英昭(6回生)

門口達美(8回生)

川崎敏明(12回生)

小川和彦(25回生)

丸田洋介(30回生)

桑島千秋(31回生)

●イラスト・カット協力

馬場 忍先生

西門耕二先生

山口景昭(2回生)

高祖一幸(4回生)

畑農照雄(5回生)

山口英昭(6回生)

●印刷

大日本印刷株式会社

株式会社マルチプリント

●発行人

生山康夫(4回生)

●発行日

平成10年6月6日